The 78th Annual Conference of Japanese Educational Research Association

日本教育学会 第78回大会

World Education Research Association Focal Meeting in Tokyo 10th Anniversary

世界教育学会　第10回記念大会

Gakushuin University

学習院大学

2019年8月6日(火) - 8日(木)

Yasuda Auditorium The University of Tokyo

東京大学安田講堂　2019年8月5日(月)

日　本　教　育　学　会
第78回大会プログラム

期　間　2019年８月５日㊊、６日㊋、７日㊌、８日㊍

期　間　東京大学安田講堂（８月５日のみ）
学習院大学（８月６日・７日・８日）

８　月　６　日㊋　　社員総会（学会理事会）
日中韓教育学会会長シンポジウム（国際シンポジウム）
ラウンドテーブル
若手交流会

８　月　７　日㊌　　一般研究発表【A】
テーマ型研究発表【B】
総会
シンポジウムⅠ（公開シンポジウム）
課題研究Ⅰ
懇親会

８　月　８　日㊍　　一般研究発表【A】
テーマ型研究発表【B】
新学会理事会発足確認の会（臨時社員総会）
シンポジウムⅡ（公開シンポジウム）
課題研究Ⅱ

日本教育学会第 78 回大会・世界教育学会 10 周年記念大会のご案内

日本教育学会第 78 回大会と世界教育学会 10 周年記念大会は、2019 年 8 月 5 日（月）、6 日（火）、7 日（水）、8 日（木）の 4 日間にわたって、東京都豊島区にある学習院大学と文京区にある東京大学安田講堂（5 日のみ）で開催します。

学習院大学は、戦前からの伝統をふまえつつ、1949 年に新しい私立大学として開学し、「ひろい視野　たくましい創造力　ゆたかな感受性」を教育目標として掲げています。現在、法学部・経済学部・文学部・理学部・国際社会科学部の 5 学部 17 学科と、大学院 6 研究科、専門職大学院（法科大学院）を備えていますが、その中に最も新しい学科の一つである教育学科（文学部）があります。開設されたのは 2013 年 4 月、最初の卒業生が 2017 年 3 月の卒業ですので「若すぎる」といってよいほどの学科です。学生定員 50 名、専任教員スタッフ 12 名という小規模な学科ですが、今回大任をお引き受けする次第となり、教育研究についての活発な交流の機会となるよう準備をすすめてまいりたいと思っております。

プログラムの構成と発表の形式は従来通りです。「自由研究発表」・「ラウンドテーブル」「シンポジウム」・「課題研究」を中心に構成し、7 日の午後に総会、夕方に懇親会を行います。「自由研究発表」は、第 68 回大会以来採用されている「一般研究発表」と「テーマ別研究発表」に区分し、7 日と 8 日の午前中に並行して時間をとります。「ラウンドテーブル」は 6 日の夕方です。「シンポジウム」・「課題研究」は 7 日と 8 日の午後にそれぞれ一本ずつ開催します。「シンポジウム」は公開とし、テーマは、7 日〈現代社会における教養と市民的自治〉、8 日に〈持続可能な社会と教育〉を予定しています。

さらに、今大会の新たな試みとして、6 日午後に〈日中韓教育学会会長シンポジウム〉を企画します。

なお、今大会は、世界教育学会 10 周年記念大会と共催という形となりました。そのため、日本教育学会大会と世界教育学会大会の両方にご参加いただく場合の参加登録の方法を、大会案内の「日本教育学会大会と世界教育学会大会の双方に参加する場合の留意点」にまとめておりますのでご参照ください。

以上の点にご留意いただき、多数の方のご参加をお待ち申し上げております。

日本教育学会第 78 回大会実行委員会（◎委員長、〇事務局長）

◎斉藤利彦　〇諏訪哲郎　飯沼慶一　岩﨑淳　久保田福美　佐藤学　佐藤陽治
嶋田由美　長沼豊　宮盛邦友　山﨑準二　石山雄貴　栗原清　堀江久樹

<table>
<tr><td rowspan="2">5日(月)
【東京大学安田講堂】</td><td>日本教育学会</td><td colspan="6">10:00 12:00 13:00 15:00 17:00 19:30</td></tr>
<tr><td>世界教育学会</td><td></td><td>WERA-Tokyo開会式・基調講演1</td><td>昼食</td><td>基調講演2・3</td><td>WERA 10周年記念式典</td><td>WERA Social Party</td></tr>
<tr><td rowspan="2">6日(火)
【学習院大学】</td><td>日本教育学会</td><td colspan="6">10:00 12:30 12:45 14:15 14:30 16:30 18:30 20:00</td></tr>
<tr><td>世界教育学会</td><td></td><td>WERA-Tokyo全体会・基調講演4・5</td><td>昼食・理事会</td><td>日中韓教育学会 会長シンポジウム</td><td>ラウンドテーブル</td><td>若手交流会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">7日(水)
【学習院大学】</td><td>日本教育学会</td><td colspan="6">9:30 12:30 13:45 15:00 15:15 18:15 18:30 20:30</td></tr>
<tr><td>世界教育学会</td><td colspan="2">自由研究発表</td><td>昼食</td><td>総会</td><td>公開シンポジウムⅠ・課題研究Ⅰ</td><td>懇親会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8日(木)
【学習院大学】</td><td>日本教育学会</td><td colspan="6">9:30 12:30 13:15 16:15</td></tr>
<tr><td>世界教育学会</td><td colspan="2">自由研究発表</td><td>昼食・新理事会</td><td colspan="2">公開シンポジウムⅡ・課題研究Ⅱ</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td></td><td colspan="6">13:30 17:30</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td colspan="3">Symposiums and Sessions</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td></td><td colspan="6">9:30 17:30</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="5">Symposiums and Sessions</td></tr>
<tr><td rowspan="2"></td><td></td><td colspan="6">9:30 15:30 16:45</td></tr>
<tr><td></td><td colspan="4">Symposiums and Sessions</td><td>WERA-Tokyo閉会式</td></tr>
</table>

大会実行委員会連絡先

(1) 電子メール：jera782019@gmail.com

(2) 住所：〒 171-8588　東京都豊島区目白 1-5-1
　　日本教育学会　第 78 回大会実行委員会事務局　学習院大学

(3) 大会当日の連絡先：開催三日前にウェブ上でお知らせします。

目　次

Ⅰ　インフォメーション…… 1
1．受付・参加費等……1
2．自由研究発表……1
3．昼食……1
4．懇親会……2
5．クローク……2
6．託児……2
7．ラウンドテーブル・自由研究発表の関係者のみなさまへ……2
8．交通アクセス……3
9．会場案内……3
10. 発表要旨集録パスワード……4

Ⅱ　大会日程・会場…… 5

Ⅲ　プログラム…… 9

Ⅳ　学会事務局からのお知らせ……63

Ⅰ　インフォメーション

１．受付・参加費等

受け付けは、5 日（月）は 9 時から、東京大学安田講堂で、6 日（火）は 9 時から、7 日（水）、8（木）は 8 時 30 分から、学習院大学西 2 号館 1 階ロビーで行います。参加費・懇親会費は次のとおりです。

大会参加費	正会員　当日	8,000 円
	正会員　事前振込割引	7,000 円
	学生会員　当日	5,000 円
	学生会員　事前振込割引	4,000 円
	臨時会員	8,000 円
	臨時会員（学生）	5,000 円
	ラウンドテーブルのみ	5,000 円
懇親会費	正会員	5,000 円
	学生会員	4,000 円
	臨時会員	5,000 円
	臨時会員（学生）	4,000 円

２．自由研究発表

発表時間は一般研究発表【A】、テーマ型研究発表【B】ともに一件当たり次のとおりです。

個人研究発表　　発表時間 25 分＋質疑 5 分

発表者（◯印）が 1 名の共同研究発表　発表時間 25 分＋質疑 5 分

発表者（◯印）が 2 名の共同研究発表　発表時間 50 分＋質疑 10 分

発表の取り消しが生じた場合、発表時刻および発表順は変更しません。

３．昼食

学内の日比谷・松本楼学習院大学店（中央教育研究棟 12 階、12 時から 14 時 30 分まで）やセブンイレブン学習院大学店が利用可能です。また、駅至近のため、付近には多数の飲食店があります。ご利用ください。

Ⅰ　インフォメーション

４．懇親会

7 日（水）の「シンポジウムⅠ」と課題研究Ⅰの終了後、18 時 30 分より日比谷・松本楼学習院大学店（中央教育研究棟 12 階）を会場に、懇親会を開催いたします。当日申込みもできますので、ご来場の際に、受付にてお申込みください。

５．クローク

西 1 号館 109 に設営します。

６．託児

司会をしてくださる方、発表される方（ラウンドテーブルの企画者等も含めて）につきましては、参加するための託児サービス（自宅でヘルパーを依頼する場合も含む）を利用した際の費用の半額を、実行委員会で負担させていただきます。領収書、あるいは金額がわかるものを当日ご持参ください。

７．ラウンドテーブル・自由研究発表の関係者のみなさまへ

(1) 配布資料がある場合は、直接会場にご持参ください。学内にコイン式のコピー機はありませんので、必要部数をご準備ください。

(2) プロジェクターをご利用の場合は、ＰＣをご持参ください。会場で準備できるプロジェクターの端子はＶＧＡ(15 ピン)のみです。Mac をご使用の場合はアダプターをご持参ください。

各会場において開始 20 分前より接続テストができるようにしておきます。

(3) 自由研究発表の司会者・報告者は開始 15 分前に会場にお集まりください。

(4) 自由研究発表の最後の討論は30分間としていますが、発表者が多い場合や討論が30 分に収まらない場合は、司会者の判断で適宜延長（最大 20 分）してください。

(5) 発表を取りやめざるを得なくなった場合は、大会実行委員会（jera782019@gmail.com）にご連絡ください。

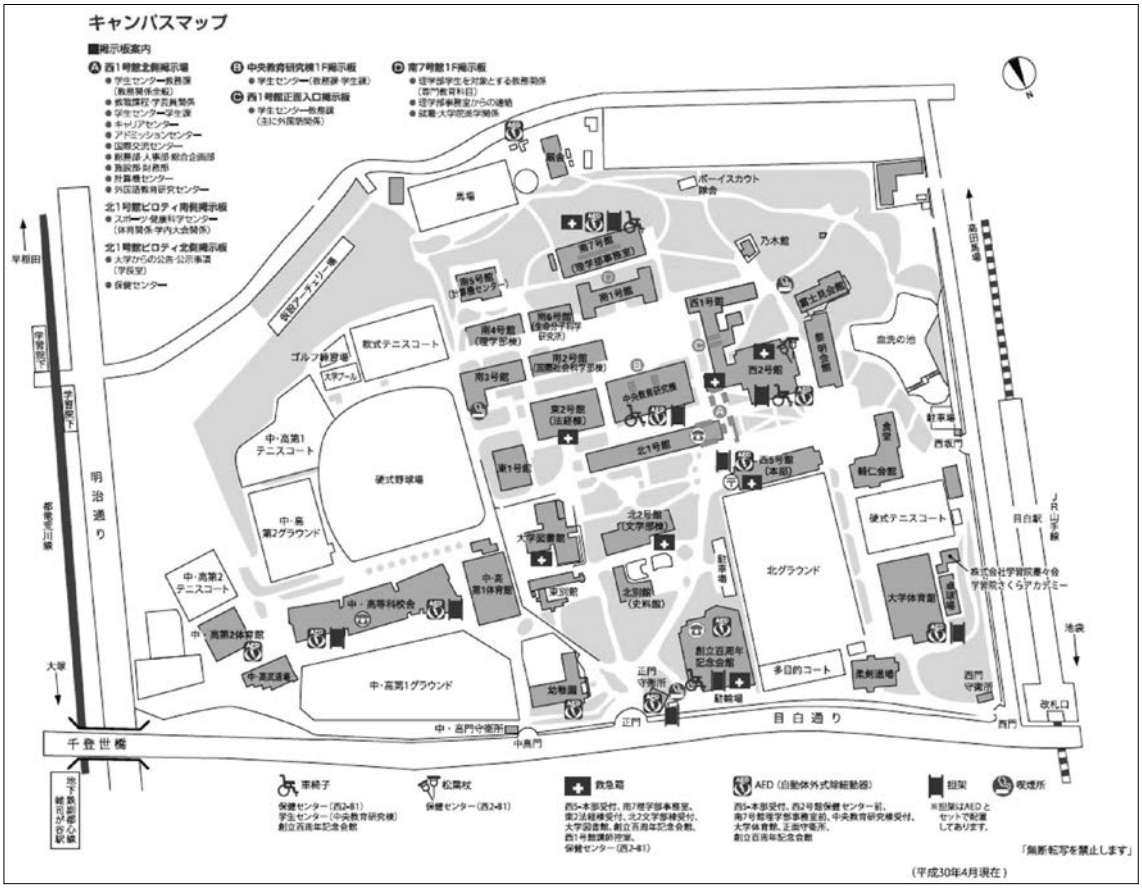
(6) 教室等が急きょ変更になる可能性があります。大会開催当日のお知らせは、受付に掲示いたします。

８．交通アクセス

東京大学安田講堂（８月５日のみ）：
【東京メトロ地下鉄丸ノ内線、都営大江戸線「本郷三丁目」駅】下車、徒歩７分

学習院大学（８月６日・７日・８日）：
【JR 山手線「目白」駅】下車、徒歩 30 秒
【東京メトロ副都心線「雑司ヶ谷」駅】下車、徒歩７分
【都電荒川線「学習院下」、「鬼子母神前」駅】も利用可

９．会場案内



＊詳細は、学習院大学および東京大学のホームページ・交通アクセスをご覧下さい。
http://www.gakushuin.ac.jp/univ/etc/access.html
https://www.u-tokyo.ac.jp/ja/about/campus-guide/map01_02.html

◎宿泊は、各自ご手配くださいますようお願いいたします。

Ⅰ　インフォメーション

10. 発表要旨集録パスワード

本大会から、『発表要旨集録』は PDF のホームページ上での公開のみとすることが理事会で承認されました。冊子体は作成しません。大会ホームページに掲載されている『発表要旨集録』について、下記パスワードを入力してご覧ください。大会時には、各位でデータ等を用意され、お持ちいただくようお願いいたします。

パスワード ●●●●●

Ⅱ　大会日程・会場

８月６日火

社員総会（学会理事会）　12：45 ～ 14：15　北 1 号館 305

日中韓教育学会会長シンポジウム（国際シンポジウム）　14：30 ～ 16：30　北 1 号館 201

東アジアにおける教育改革～教育学会の国際的連携の展望～

ラウンドテーブル　16：30 ～ 18：30

	テーマ	建物名・教室名
A	韓国の情報政策と教育改革にみる学校図書館と図書館の変化	西 1 号館 104
B	コルチャックの孤児院教育実践と子どもの権利の探究	西 1 号館 106
C	子ども史研究再考 ――記録保存／分析視座／歴史叙述	西 1 号館 107
D	「科学・芸術の基礎」を学ぶ授業の創造 ―巨摩中学校の教育	西 1 号館 206
E	拡張的学習者としての教師・変化の担い手としての教師 ―教師教育の活動理論的研究―	西 1 号館 207
F	知的財産の教育研究を推進するために	西 1 号館 208
G	東日本大震災８年後の教育課題を探る	西 1 号館 209
H	教育学研究者の自己形成と戦後日本の教育学 ――堀尾輝久氏、宮澤康人氏、藤田昌士氏への聴き取り調査より――	西 1 号館 210
I	デジタル・シティズンシップ教育の展望 ―メディア情報リテラシー・学校図書館の視点から―	西 1 号館 303
J	「学校外教育」の再定位 ―学習塾とフリースクールの視点から―	西 1 号館 304
K	現代米国教育改革におけるナショナル・アイデンティティの問題を問う	西 1 号館 307
L	「社会に開かれた教育課程」に挑む	西 1 号館 308
M	小中一貫校の総合的研究	西 1 号館 305

若手交流会　18：30 ～ 20：00　北 1 号館 305

Ⅱ　大会日程・会場

８月７日水

自由研究発表　９：30 ～ 12：30

Ａ：一般研究発表／Ｂ：テーマ型研究発表

	テーマ	建物名・教室名
Ａ－１	教育理論・思想・哲学①	西１号館 104
Ａ－４	教育行財政・教育法	西１号館 106
Ａ－５	比較・国際教育①	西１号館 107
Ａ－６	教育方法・教育課程①	西１号館 206
Ａ－11	幼児教育・保育	西１号館 207
Ａ－12	初等・中等教育	西１号館 208
Ａ－14	教師教育	西１号館 209
Ａ－15	社会教育・生涯学習①	西１号館 210
Ａ－18	特別支援教育	西１号館 303
Ｂ－４	若者の移行過程・変容と学校	西１号館 304
Ｂ－８	戦後教育史の諸問題①	西１号館 307
Ｂ－13	知的財産教育の研究を推進するために	西１号館 308

総会　13：45 ～ 15：00　北１号館 401

シンポジウムⅠ　15：15 ～ 18：15　北１号館 201
現代社会における教養と市民的自治

課題研究Ⅰ　15：15 ～ 18：15　北１号館 401
教員の働き方改革と教職の専門職性

懇親会　18：30 ～ 20：30　日比谷・松本楼学習院大学店

8月8日木

自由研究発表　9：30 ～ 12：30

A：一般研究発表／B：テーマ型研究発表

	テーマ	建物名・教室名
A－1	教育理論・思想・哲学②	西 1 号館 104
A－2	教育史	西 1 号館 106
A－3	学校制度・経営	西 1 号館 107
A－5	比較・国際教育②	西 1 号館 206
A－6	教育方法・教育課程②	西 1 号館 207
A－13	高等教育・中等後教育	西 1 号館 208
A－15	社会教育・生涯学習②	西 1 号館 209
B－2	学校のリアリティと教育改革の課題	西 1 号館 210
B－8	戦後教育史の諸問題②	西 1 号館 303
B－9	教育学の問い直し	西 1 号館 304
B－10	子ども問題と教育・福祉	西 1 号館 307
B－14	Educational Issues from Global Perspectives (English Session)	西 1 号館 308

新学会理事会発足確認の会（臨時社員総会）　12：30 ～ 13：15　北 1 号館 305

シンポジウムⅡ（公開シンポジウム）　13：15 ～ 16：15　北 1 号館 308

持続可能な社会と教育

課題研究Ⅱ　13：15 ～ 16：15　北 1 号館 401

Education and Citizenship: Empowering People for a Global Society

教育とシティズンシップ：グローバルな社会における人びとのエンパワメントに向けて

プログラム　２日目

８月６日火

社員総会（学会理事会）

日中韓教育学会会長シンポジウム（国際シンポジウム）

ラウンドテーブル

若手交流会

14：30 ～ 16：30　北 1 号館 201

日中韓教育学会会長シンポジウム（国際シンポジウム）

東アジアにおける教育改革

～教育学会の国際的連携の展望～

Symposium of Three Presidents of Educational Research Associations – Korea, China and Japan

“Educational Reforms in East Asia”

日本教育学会大会における初めての企画として、中国、韓国、日本の教育学会会長による国際シンポジウムを開催します。「東アジアの教育改革」をテーマに、三学会の会長には 21 世紀のグローバルな教育課題と、それぞれの国における教育改革の動向や教育研究の課題、そして、今後の教育学会の国際的連携の展望等について、語っていただきます。

パネルディスカッションと会場の参加者からの発言を通して、東アジアにおける教育改革と教育研究について、その課題認識を共有するとともに、個別の課題についても互いの理解を深めたいと思います。

すでに多くの学生がお互いの国で学び、教育実践や教育研究の共同や交流も進んでいる中で、このシンポジウムの開催は、教育学会としての今後の互いの協力のあり方を模索し、議論を深める場ともなることが期待されます。

日本語、中国語、韓国語の同時通訳による開催を予定しています。

【基調報告者と報告タイトル】

钟秉林（Zhong, Binglin）中国教育学会会長
「中国教育発展の現状と未来への展望」

金聲烈（Kim, Seong Yul）韓国教育学会会長
「韓国における教育改革の動向－教育のガバナンス改革の観点から」

広田照幸（Hirota, Teruyuki）日本教育学会会長
「現代日本の教育改革と社会変動」

【基調報告者のプロフィール】

钟秉林（Zhong, Binglin）中国教育学会会長

1977 年に東南大学（当時は南京技術学院）を卒業し、1987 年に工学の修士号を取得。
1994 年に英国ウェールズ大学にて博士号を取得。東南大学の副学長に任命される。
1996 年に中国人民共和国国家教育委員会高等教育司司長（政府教育部高等教育部部長）。
2001 年から 2012 年まで北京師範大学学長。
2012 年に中国教育協会（中国教育学会）の会長に就任。
中華人民共和国国務院の学術委員会メンバー、国家教育諮問委員会メンバー、
教育科学の専門学位教育のための全国運営委員会委員長、国家教育審査委員会委員。
英国カーディフ大学名誉副学長。

金聲烈（Kim, Seong Yul）韓国教育学会会長

ソウル大学で B.A.、M.A.、Ph.D. の学位を取得。
1985 年から慶南大学教授、2011 年～ 2014 年には同大学副学長をつとめる。
韓国教育行政学会会長（2015 年）、韓国教師教育学会会長（2014 年）、韓国教育課程評価院院長（2008 年～ 2011 年）を歴任。
韓国の教育の民主化運動、教育におけるガバナンスとオートノミーについての研究を続けるとともに、「効果的な学校」のデザイン、大学改革政策、教育におけるリーダーシップにも研究関心を広げている。
主要な業績として、『公教育：理論、実践と改革』『韓国教育の 60 年』等の著書と、「1980 年代における教師たちの韓国教育民主化運動についての批判的総括」「成功する学校運営委員会の特性」「校長の職務パフォーマンス：その方向性、現実と課題」等の論文がある（尚、著書と論文のタイトルは邦訳したものである）。

広田照幸（Hirota, Teruyuki）日本教育学会会長

日本大学文理学部教授　日本教育学会会長（2016 年～）
東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士（教育学）。
南山大学助教授、東京大学教授などを経て、2006 年から現職。専門は教育社会学。
歴史研究と理論研究とを中心に、近現代の教育を多面的に考察している。
日本教育社会学会理事、教育史学会理事。
主な著書に『陸軍将校の教育社会史―立身出世と天皇制』（世織書房、サントリー学芸賞受賞）、『思考のフロンティア　教育』（岩波書店）、『格差・秩序不安と教育』（世織書房）、『教育は何をなすべきか―能力・職業・市民』（岩波書店）など多数。

尚、本シンポジウムの開催は科研・基盤研究（B)19H01621「教育学研究の国際展開の実態・構造・将来像に関する研究――学会の機能に注目して――」（研究代表者・東北大学・米澤彰純）の研究活動の一環として行われるものである。

16：30 ～ 18：30　西 1 号館 104

【A】韓国の情報政策と教育改革にみる学校図書館と図書館の変化

企画者：木幡　洋子（愛知県立大学）

司会者：野口　武悟（専修大学）

報告者：木幡　洋子（愛知県立大学）

《趣旨》

韓国は、国の情報政策の一環として 1999 年に韓国教育学術情報院（KERISI）を設立し、初等・中等学校に教材などの電子配信を行っていた EDUNET と学術情報を提供していた RISS は KERIS に統合され、教育と学術の情報化の拠点となった。その後、KERIS は全国民を対象とした教育の情報化に向けてシステムを構築していったが、2010 年にはすべての国民を対象とした教育関係データを提供するために NEIS（National Education Information System）を構築し、現在までに就学前教育、初等教育、高等教育における教育情報の提供を行っている。e-learning のための教材提供は、初等・中等教育では EDUNET により、高等教育では KOCW（Korea Open Course Ware: オンライン大学公開講座）によって行われている。また、生徒の成績などの教育情報や教育関係のビッグデータも NEIS に蓄積され、入試や教育改善のために提供され、教育財政関係のデータも edufine により公開され、「教育の情報化」はほぼ網羅的に進められている。また、情報社会の構築をめざしていることから不可欠の倫理としてインターネットコンテンツに対する倫理を普及するため、2009 年にはコンテストを開始している。

こうした情報社会の構築の進行は、教育改革においても新たな手法を生み出す契機となっている。2009 年に改訂された教育課程は、「創造的な体験活動」の時間を全授業時間の 1 割とするなど、生徒の自由度を高くし、中学校には自由学期制が導入された。“ 自由学期 ” として指定した学期では、討論や実習などを中心にカリキュラムが組まれなければならず、2013 年からの移行期間を経て 2016 年には全校実施となっている。中学 1 年生から中学 2 年生の 1 学期の期間中のいずれか 1 学期（なお、韓国は 2 学期制）を自由学期にするというこの制度に対し、2018 年には中学 1 年の全期を通じて午後は自由時間にするよう教育部から通達がだされた。この年間自由時間制の実施内容は自治体の裁量に委ねられており、大邱市の読書活動サークルへの出版助成事業やソウル市麻浦（マッポ）特別区の中央図書館の青少年教育センターによる支援が産み出されている。

ラウンドテーブル　8 月 6 日 火

16：30 ～ 18：30　西 1 号館 106

【B】コルチャックの孤児院教育実践と子どもの権利の探究

企画者：塚本　智宏（東海大学札幌キャンパス）
　　小田倉　泉（埼玉大学）

司会者：小田倉　泉（埼玉大学）

報告者：大澤　亜里（札幌大谷大学短期大学部）
　　塚本　智宏（東海大学札幌キャンパス）

《趣旨》

ヤヌシュ・コルチャック（1878-1942）の子どもの権利思想は、子どもの権利宣言の条約化の背景に存在するが、戦後の子どもの権利を巡る国際的議論において見失われ、その為子どもの権利に関する深い理解が妨げられてしまったという指摘がある。これは子どもの権利探究における彼の権利論のもつ意義を示している。本テーブルではコルチャックの子どもの権利論を、子どもとの直接的関わりの中で追求されたものと、子どもの社会的・政治的位置づけを巡る思想や社会的実践の中で追求されたものとで分け、当時の歴史の中で考察する。

まず、①コルチャックの実践に関する詳細な研究を日本で初めて著した若手研究者による報告から、実践の場における子どもの権利保障について考え、次に、②コルチャックの子どもの権利論の歴史的展開を検討してきた研究者の報告から、当時どのような社会・政治的実践の中で子どもの権利が探求されたか、その実践的な意義を考察する。

参加される会員、市民の方達と共に考えていきたい。

報告①大澤亜里「コルチャックの孤児院教育実践と子どもの権利」

コルチャックは自身が院長を務める孤児院において、子どもたちが生活している場の運営に従事し、仲間や教育者と共同しながら生活することを重視した独自の実践を試みた。本発表では、設立（1912 年）から 1920 年代までの孤児院実践を通観し、コルチャックの意図や試行錯誤を報告しながら、彼の権利論の具現化について考える。

報告②塚本智宏「当時のポーランド社会と子どもの権利の探究」

コルチャックの子どもの権利実現の実践舞台と背景の歴史的展開を、乳幼児の親子関係と子どもの権利の考察に始まり､孤児院（自治と同権）の世界での子どもの権利構造の構築へと向かった実践の舞台、他方でポーランド独立以前から独立後 1920 年代にかけての子どもの権利の社会的位置を巡る諸見解とコルチャック権利論の枠組みの変化を考える。

16：30 ～ 18：30　西 1 号館 107

【C】子ども史研究再考

――記録保存／分析視座／歴史叙述

企画者：野々村淑子（九州大学）

司会者：土屋　　敦（徳島大学）

報告者：野々村淑子（九州大学）
乙須　　翼（長崎国際大学）
草野　　舞（九州大学大学院・学生）
大森万理子（九州大学）
土屋　　敦（徳島大学）
阿久津美紀（目白大学）

《趣旨》

児童保護や福祉への関心が高まるなかで、歴史研究においても、孤児、浮浪児、貧困児など社会で周縁化された子どもやその救済、保護が注目されている。『孤児と救済のエポック――一六～二〇世紀にみる子ども・家族規範の多層性』（勁草書房、2019 年 2 月）は、そうした子ども史研究の視座や叙述様式と、その前提にある子どもや家族規範の、多層的、複合的な形成過程を歴史的に問うことを目指して編まれたものである。子どもの保護、救済の歴史叙述における、家族や教育の規範や論理が浮上する様相、そして子ども期の科学化を通じたあるべき子ども規範の創出と普遍化の様相を、それぞれエポックとされる時代、地域の文脈に沿って解明を試みた。

本ラウンドテーブルでは、本書の執筆陣による報告、論点整理の上で、アーカイブズ学をご専門とし、かつエリザベス･サンダース･ホームをはじめとした児童福祉施設における記録管理、保存に関する研究を手がけている阿久津美紀氏（目白大学）からコメントをいただき、子ども史研究の課題について議論する。

社会的養護で養育された経験をもつ人（ケアリーヴァー（care leaver））や福祉施設の管理者や職員に関する（にとっての）記録、保存、公開の内容や方法、それらに関する法や制度の問題と、子どもや家族の規範が形成される政治的磁場の問題は、密接に結びついているであろう。子ども史（児童保護や救済の歴史）は、ともするとあるべき規範への到達度合やそれへの道程として叙述されることが多い。その規範が生成する様相と、それを支えた文脈と論理を解明するために必要な、資史料との出会い方、対し方はどのようなものなのか。児童保護、救済の事業や施設の記録（資史料）を管理し保存するというアーキビストの仕事と、それを収集し、史料批判を重ねながら分析、解釈し、歴史として叙述していくという歴史研究者の仕事との対話を通して、子ども史研究再考の一歩としたい。

16：30 ～ 18：30　西 1 号館 206

【D】「科学・芸術の基礎」を学ぶ授業の創造
―巨摩中学校の教育

企画者：吉村　敏之（宮城教育大学）

司会者：吉村　敏之（宮城教育大学）

報告者：吉村　敏之（宮城教育大学）
本田　伊克（宮城教育大学）
本間　明信（元宮城教育大学）
埴原美枝子（元巨摩中学校教員）

《趣旨》

1962 年から 1975 年にかけて、「科学・芸術の基礎」を学ぶ授業を創った、巨摩中学校（現在の山梨県南アルプス市、旧中巨摩郡白根町）の実践と研究の特質を示す。日本の授業研究の歴史における意義を示すとともに、これからの学校教育で求められる「主体的・対話的で深い学び」の実現にむけて教師に必要な専門性の解明も目指す。全国に注目された合唱を指導した教師、埴原美枝子氏から、当時の実践と研究について話してもらう。埴原氏の報告に対して、民間教育研究運動で形成された教育学の知の解明を進める、本田伊克氏が、巨摩中学校の教育研究に助言した遠山啓（数学教育者）の提案の意義について語る。科学・芸術の専門的知見と授業の創造とをつなぐ「教授学」研究を進めてきた、本間明信氏には、巨摩中学校の生徒が取り組んだ教科学習の価値を示してもらう。

16：30 ～ 18：30　西 1 号館 207

【E】拡張的学習者としての教師・変化の担い手としての教師
―教師教育の活動理論的研究―

企画者：山住　勝広（関西大学）

司会者：山住　勝広（関西大学）

報告者：山住　勝広（関西大学）
冨澤美千子（横浜美術大学）
山田　直之（神戸女子大学）

《趣旨》

学校におけるカリキュラムや授業、教育実践の改革に関する教育学研究の分野では、中央からトップダウンで降ろされた教育政策を現場がただたんに実行する、といったリニアな見方について、それを批判的に乗り越えうるような新たな研究枠組みがますます求められるようになっている。そこでは、教師を、学校における学習指導に関する新しい政策の完全に受動的なエージェントと見るこれまでの枠組みから脱却し、自分自身の経験や信念や知識にもとづき、改革を現場で具現化していく教師の「エージェンシー」（すなわち、行為の担い手としての能力と意志）こそが、変化の鍵を握るものであることが注目されてきている。

本ラウンドテーブルは、学校改革の鍵を握る教師の専門性開発をめぐり、「文化・歴史的活動理論」と「拡張的学習理論」の枠組みにもとづき、教師の新たな専門性を「拡張的学習者としての教師･変化の担い手としての教師」として概念化した上で､今日の時代に求められている､協働して変革を生み出していく教師の専門性の開発について検討しようとするものである。

「文化・歴史的活動理論」は、文化・歴史的に構築されてきた人間の「活動システム」を人々がどう集団的にデザインし変革していくのかを研究する枠組みである。「拡張的学習理論」は、活動理論の枠組みにもとづき、活動の集団的なデザインと変革への実践的な参加が、すなわち実践者たちの学習のプロセスであると見る新しい学習理論である。本ラウンドテーブルでは、教師教育の活動理論的研究の試みとして、学校現場での教師たちの協働的な拡張的学習をいかに促進・支援していくのかに焦点化した形成的介入研究の方法論について議論していきたい。そうした形成的介入研究は、教師たち自身が協働して変化を創造するエージェンシーを獲得し、拡張して高めていくことによって、介入プロセスの主導権を教師たち自身が握ることを基本原理にしたものである。

16：30 ～ 18：30　西 1 号館 208

【F】知的財産の教育研究を推進するために

企画者：世良　　清（三重県立津商業高等学校）

司会者：世良　　清（三重県立津商業高等学校）

報告者：上野　　翼（三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング）
　　世良　　清（三重県立津商業高等学校）
　　谷口　牧子（旭川工業高等専門学校）
　　吉田　拓也（四天王寺学園高等学校）

《趣旨》

知的財産（知財）は、今日、学校教育にとっては重要な教育課題である。知財教育は 2000 年代に入り、内閣総理大臣によって知財立国宣言がなされ、「知的財産推進計画」によって、その方向性が示されたことに起源がある。2017 年には、内閣府に「知財創造教育コンソーシアム」が創設されるなど、概念形成が進んできた。中高の学習指導要領では一部で教科学習の内容となった。しかし教育学の研究体系としての構築はまだ進んでいないので、2018 年の第 77 回大会では、ラウンドテーブル「知的財産の教育研究を構築するために」で議論が進んだ。引き続き、知的財産の教育研究の展開を考えたい。

16：30 ～ 18：30　西 1 号館 209

【G】東日本大震災８年後の教育課題を探る

企画者：清水　睦美（日本女子大学）

司会者：堀　　健志（上越教育大学）

報告者：山本　宏樹（東京電機大学）
日下田岳史（大正大学）
松田　洋介（大東文化大学）
佐藤　　真（岩手県教育委員会事務局沿岸南部教育事務所）
柿本　隆夫（神奈川県大和市教育委員会）

《趣旨》

本ラウンドテーブルは、東日本大震災で甚大な津波被害を受けた陸前高田市に焦点をあて、発災直後からこれまでの間に、被災地の学校・教育行政がいかなる試行錯誤をしてきたのか、そこにいかなる課題と展望があるのかを追求しようとするものである。

東日本大震災から８年が経過した。震災直後の混乱期、教師や保護者の多くが、子どもたちが普通の学校生活を送れるように献身的に動いたことはよく知られている。しかし、学校に期待されていたのは、震災以前の状態に戻すことだけではない。震災後、様々な経験をした子どもや教師だからこそできる教育、学校があるはずだ、このように考える学校当事者も少なくなかった。そもそも、現在に至っても、被災地は震災以前の状態に戻ってはいない。むしろ、被災した現実と現在の日常は分かちがたく結びついている。震災を考えること、震災とつきあうことは，自分たちの学校や生活をつくることそのものでもある。こうした震災に関する問題状況の中で、被災地ではいかなる学校生活がつくられてきたのか。

本ラウンドテーブルでは、それを陸前高田市という個別具体的な事例に則して検討する。具体的には、調査メンバーが、陸前高田市の一つの中学校での長期的な参与観察で得られた知見や各種資料をもとに、震災後の学校や地域の変化を報告し、そうした調査グループの報告に対して、陸前高田市の状況について熟知している、学校当事者（現・岩手県教育委員会事務局沿岸南部教育事務所主任指導主事／前・陸前高田市立中学校教員）、学校支援者（震災直後から中学校教師として陸前高田市への支援を開始。現在関東地方の市の教育長）がコメントを行い、さらにフロアの意見も踏まえながら、その認識の一致とズレを共有していく。異なる立場から、同じ対象をめぐる認識をたたかわせることで、被災地の教育課題を浮き彫りにすると同時に、その展望を複数的に描くことが目指される。

16：30 ～ 18：30　西 1 号館 210

【H】教育学研究者の自己形成と戦後日本の教育学

――堀尾輝久氏、宮澤康人氏、藤田昌士氏への聴き取り調査より――

企画者：櫻井　　歓（日本大学）

司会者：木村　　元（一橋大学）

報告者：櫻井　　歓（日本大学）
　　太田　健児（尚絅学院大学）
　　桑嶋　晋平（東京大学大学院・研究員）

《趣旨》

科研費による研究「日本教育思想史における〈教育〉〈哲学〉〈政治〉の連関の構造」（研究代表者：櫻井歓、2017 ～ 2020 年度）の一環として行われた 3 名の教育学研究者（堀尾輝久氏、宮澤康人氏、藤田昌士氏）への聴き取り調査（インタビュー）の記録を紹介しながら、教育学研究に資する新たなテクストとしての可能性を探る。

近年の教育学界の動向として、戦後日本の教育学研究をリードしてきた研究者への聴き取り調査によるテクスト創出の取り組みがある（日本教育学会特別課題研究委員会『「戦後教育学の遺産」の記録』（大田堯氏、竹内常一氏ほかへのインタビュー記録、2013・14 年）、教育哲学会プロジェクト『聞き書 上田薫回顧録』『聞き書 村井実回顧録』（森田尚人編、2009 年）など）。本研究はこうした動向とも呼応して上記 3 氏へのインタビューを実施したものである。

堀尾氏と藤田氏は、戦後の教育科学研究会（教科研）の運動を担ってきた研究者であるとともに、勝田守一の門下あるいは影響下で学問上の自己形成を遂げてきたという共通性をもつ。また宮澤氏は、堀尾、藤田両氏と同世代であって勝田の門下であり、かつ教科研運動の外側にポジションを取りながら教育史研究を進めてきた研究者である。

3 氏にはそれぞれ、(1) 生い立ちに遡っての自己形成・思想形成、(2) 勝田守一との関わりを含め〈教育〉〈哲学〉〈政治〉の連関についての見方、という概括的な 2 項目に関しては共通に聴き取りを行い、あわせて各氏の研究活動の展開など多様なテーマで語っていただいた。この調査で創出されたテクストは、現代の教育学研究に関する証言であるとともに、勝田を京都学派の系譜に位置づけ直すための基礎的情報となる可能性をもつものでもある。

本ラウンドテーブルでは、インタビュー記録の概要を紹介しながら、これらのテクストが教育学研究に資する可能性について試論的に報告する。

16：30 ～ 18：30　西 1 号館 303

【 I 】デジタル・シティズンシップ教育の展望
―メディア情報リテラシー・学校図書館の視点から―

企画者：前田　　稔（東京学芸大学）

司会者：前田　　稔（東京学芸大学）
　　坂本　　旬（法政大学）

報告者：坂本　　旬（法政大学）
　　今度　珠美（鳥取県情報モラルエデュケーター）
　　前田　　稔（東京学芸大学）
　　岡部李理衣（東京学芸大学大学院・学生）

《趣旨》

近年、デジタル・シティズンシップ教育への注目が高まっている。デジタル・シティズンシップ教育は主に諸外国で発展してきたが、坂本はメディア情報リテラシーの視点に立脚しつつ、今度とともに『日本におけるデジタル・シティズンシップ教育の可能性』において次のように提言しており、今回のラウンドテーブルにおける議論の軸としたい。（１）情報モラル教育を新しいメディア・リテラシー教育の一部として位置づけ、デジタル・シティズンシップ教育をモデルにした教育として捉え直す、（２）情報モラル教育にないデジタル･アクセスやデジタル･コマースなどの要素を取り込む、（３）メディア･リテラシーに包摂される情報モラルには，フェイクニュース時代に対応する新しいメディア・リテラシー教育の視点を取り入れ、融合させる必要がある。

また、第 68 回大会において学校図書館をテーマに始まった当ラウンドテーブルは、第 72 回大会よりメディア情報リテラシーへ関心を広げ、今年で１１年目を迎えるが、学校図書館領域からは今回、前田と岡部が報告を行う。公共図書館も含めおよそ図書館はシティズンシップと密接に発展してきた。特に「図書館の自由」に関して、市民のあるべき姿への焦点の当て方が模索されてきた。これらの歴史をふりかえりつつ、司書教諭や学校司書が積極的にデジタル・シティズンシップ教育と関わっていく展望を示していく。また、岡部はこれまで、学校図書館の活用と国語科教育の視点から、シティズンシップ教育ないし主権者教育のありかたを研究してきた。文学作品の読みを通じた国語科教育における成果は、デジタル・シティズンシップ教育にも応用できると考えられよう。

なお、本ラウンドテーブルのテクストブックとして参加者は下記から事前にダウンロードし読んでおくことを希望する。

坂本旬・今度珠美「日本におけるデジタル・シティズンシップ教育の可能性」http://cdgakkai.ws.hosei.ac.jp/wp/wp-content/uploads/2018/12/16-01-01.pdf

16：30 ～ 18：30　西 1 号館 304

【J】「学校外教育」の再定位
―学習塾とフリースクールの視点から―

企画者：佐久間邦友（日本大学）

司会者：佐久間邦友（日本大学）

報告者：佐久間邦友（日本大学）
高嶋　真之（北海道大学教育学研究院・院生）
田中　光晴（文部科学省／国立教育政策研究所フェロー）
本山　敬祐（東北女子大学）

《趣旨》

近年、「学校外教育」が東アジア地域をはじめ世界各国に拡がりを見せ、学校外教育・補習教育・学校外受験指導の研究が各国で盛んに行われている。そこで昨年のラウンドテーブル（@宮城教育大学）では、マーク・ブレイらの『Regulating Private Tutoring for Public Good: Policy Options for Supplementary Education in Asia』をもとに、諸外国（英語圏）の学校外教育（学習塾）に関する研究動向や課題などを検討した。

1990 年代後半までの日本における「学校外教育」に関する研究は、「社会教育」「学習塾」の 2 つの視点より検討がされてきた。1987 年に公表された結城らの研究によれば、学習塾は「進学塾」「補習塾」「総合塾」「救済塾」に分類されるという。しかしながら「救済塾」以外の学習塾は、現在もその役割・機能をイメージすることは可能ではある。しかしその一方で「救済塾」の役割や機能は、「フリースクール」にとって代わりつつあるといえよう。

そこで本ラウンドテーブルでは、各報告者が「社会教育」「学習塾」「フリースクール」の 3 つの視点より日本における「学校外教育」を再検討し、かつ東アジアにおける「学校外教育」と比較する。そうした検討をもとに、議論を深め「学校外教育」研究の再検討を試みたい。

16：30 ～ 18：30　西 1 号館 307

【K】現代米国教育改革におけるナショナル・アイデンティティの問題を問う

企画者：岸本　智典（昭和音楽大学）

司会者：小野瀬善行（宇都宮大学）
　　岸本　智典（昭和音楽大学）

報告者：市川　秀之（千葉大学）
　　森本　和寿（京都大学大学院・学生）
　　太田　知実（神戸大学大学院・学生）

《趣旨》

近年のいわゆるグローバル化、ポスト産業化の流れにともない、わが国への移入民の数が現在増加傾向にあることは、各種報道によっても知られるところである。それぞれの社会的文脈はさまざまであるとはいえ、将来的に学校をはじめとする公的な教育空間においていわゆる外国人児童・生徒の数や割合の高まることも想像され、これがひとつの教育問題として重要性を帯びることは十分に予想される。本ラウンドテーブルでは、こうした現代的あるいは将来的な教育課題に対する問題意識を出発点としながら、視点を米国の過去から現在にかけての教育論議――理念的なものから現実的、制度的なものまで――へと移し、上述のような状況下で生じる議論の諸論点をそこから析出し、整理することを目的とする。そのさいとくに、現代の米国教育改革において「ナショナル・アイデンティティ」の問題はどのように問われているのかという問いを立て、これに対して、分野横断的に三つの視角――教育哲学、教育方法学、教育制度論――から回答することを試みたい。教育においてナショナル・アイデンティを問うことの意義――あるいは問わないことの危険性――はどのようなものか。それは教育方法や評価の問題といかに関連してくるのか。また、教員養成の課程においてナショナル・アイデンティティの問題はいかに扱われるべきか。以上のようないくつかの問題提起を、本ラウンドテーブルではおこないたいと考えている。

16：30 ～ 18：30　西 1 号館 308

【L】「社会に開かれた教育課程」に挑む

企画者：小形　秀雄（北海学園大学）

司会者：小形　秀雄（北海学園大学）

報告者：堂徳　将人（北海商科大学）
　　森　　靖明（北翔大学）
　　小形　秀雄（北海学園大学）

《趣旨》

新しい学習指導要領への円滑な移行に向けて、各学校での実践が開始されている。中央教育審議会『幼稚園・小学校・中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策等について（答申）』（2016 年 12 月 21 日）において、新学習指導要領改訂の中核的な理念として位置づけられた「社会に開かれた教育課程」の編成・実施を進めることが、各学校において急務となっている。一方、大学においても『新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）』（2016 年 12 月 22 日）を踏まえ、初等中等教育との一貫性のある教育を推進することが一層重要になっている。こうした背景から、初等中等教育の実践と高等教育の教育・研究とが、双方向性をもって有機的な関連を深めることが求められており、「社会に開かれた教育課程」を創るための理論と実践との効果的な往還の在り方について検討していくことが重要である。

本ラウンドテーブルでは、こうした課題認識から大学（高等教育）と学校（初等中等教育）の具体的な連携・協働の実践事例をもとに検討するとともに、今後の具体的な方策について、次の３つの研究と実践を事例として考察する。

16：30 ～ 18：30　西 1 号館 305

【M】小中一貫校の総合的研究

企画者：山本　由美（和光大学）

司会者：梅原　利夫（和光大学・名誉教授）
　　金馬　国晴（横浜国立大学）

報告者：山本　由美（和光大学）
　　都筑　　学（中央大学）

《趣旨》

小中一貫校は、義務教育学校の法制化（2015 年）もあって全国で増加している。しかし施設一体型小中一貫校の教育的効果やデメリットについては十分に検証されているわけではない。本ラウンドテーブルでは、小中一貫校の指導生徒を対象とした全国アンケート調査結果の心理学的な分析を中心に、小中一貫校の成果や課題について明らかにしていきたい。さらに、全国動向、学校の状況についても共有していきたい。

若手交流会　8 月 6 日 火

18：30 ～ 20：00　北 1 号館 305

テーマ A:　学術振興会特別研究員申請のポイント
テーマ B:　若手会員が学会に望む支援

企画者：若手育成委員会

《趣旨》

日本教育学会第 78 回大会では、第 4 回目となる若手交流会を上記日程にて開催します。

近年は、各専門領域の学会においても若手育成のためのさまざまな工夫が行われています。しかし日本教育学会の若手交流会は、広く＜教育＞全般を研究対象にしている若手研究者が領域を超えて出会える場だという点で、刺激を喚起しあう場になっているのではないかと思います。また、より良い研究状況を実現するために、それぞれの専門領域での有益な情報を持ち寄って、ともに改善を求める場ともなっています。若手会員の方々は、是非ご参加ください。

今回企画のテーマ A は、第 3 回の交流会でも実施しました。大変好評でしたため、今回はより多くの若手の方に参加していただければと思います。また、終了後、個別のアドバイスを求められる方がいる場合は、それにも対応する予定です（過去に応募した書類などをお持ちください）。

なお、3 月に実施した若手育成委員会主催の第 3 回交流会では、残念なことに、首都圏の若手の方がほとんどという状況でした。今回は、教育学会の大会時における開催ですので、各地の若手の方の出席を期待します。特にテーマ B では、地方若手会員が望む支援とは何かについて、意見交流ができることを期待しています。

話題提供者については、現時点ではまだ確定していません。後日、HP 上でご連絡します。

参加をご希望の方は、若手育成委員会メールアドレス（jera.wakate@gmail.com）に、以下について記載の上、7 月 20 日（土）までにご連絡ください。

(1)　氏名
(2)　所属
(3)　メールアドレス
(4)　その他（学術振興会書類アドバイス他。ご要望があれば）

事前申し込みがなくても参加は可能ですが、資料印刷等の都合上、できるだけ事前にご連絡いただけると幸いです。

プログラム　３日目

８月７日水

一　般　研　究　発　表　【A】

テ ー マ 型 研 究 発 表 【B】

総　　会

シンポジウムⅠ（公開シンポジウム）

課　　題　　研　　究　　Ⅰ

懇　　親　　会

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 104

【自由研究発表：一般研究発表Ａ－１】教育理論・思想・哲学①

司会：田中　昌弥（都留文科大学）

９：30 ～ 10：00　**下中弥三郎における生命主義**
○伊東　順真（北海道大学大学院教育学院）

10：00 ～ 10：30　**野村芳兵衛における「生命信順」の教育への転回**
―他力の教育の覚醒過程
○冨澤　美千子（横浜美術大学）

10：30 ～ 11：00　**登校拒否・不登校問題言説史序論**
―1970 年代以降に焦点を当てて―
○前島　康男（東京電機大学）

11：00 ～ 11：30　**「良い」アクティブラーニング型授業とは何かを省察するためには何が必要か**
―大学教育の「コア」としての
○松村　一徳（広島修道大学学習支援センター）

11：30 ～ 12：00　**教育思想としてのガバナンス**
―大学ガバナンスの意味の変遷―
○金子　章予（西武文理大学）

12：00 ～ 12：30　**討論**

9 ：30 ～ 12：00　西 1 号館 106

【自由研究発表：一般研究発表Ａ－４】教育行財政・教育法

司会：中田　康彦（一橋大学）

９：30 ～ 10：00　**高校生の政治的活動の制約論理**
○宇野由紀子（名古屋大学（院生））

10：00 ～ 10：30　**学校教育法出席停止条項の改正と施行過程の検討**
○坂野　愛実（名古屋大学教育発達科学研究科）

10：30 ～ 11：00　**高等教育における教育福祉政策の推進に関する**
―考察 - 韓国の国家有功者等への授業料支援の現状を中心に
○宋　　善英（韓国大学教育協議会）

11：00 ～ 11：30　**現代中国における「無償師範生」政策の実施状況と課題**
―採用・配置の分析を通して
○王　　佳寧（北海道大学教育学院）

11：30 ～ 12：00　**討論**

9 ：30 ～ 12：00　西 1 号館 107

【自由研究発表：一般研究発表Ａ－５】比較・国際教育①

司会：長島　啓記（早稲田大学）

９：30 ～ 10：00　**子どもの多様性と学習の個別化について**
―ドイツの事例から―
○中山あおい（大阪教育大学）

10：00 ～ 10：30　**ドイツにおける不登校生徒へのオルタナティブな教育の機会提供**
○井本　佳宏（東北大学大学院教育学研究科）

10：30 ～ 11：00　**フィンランドの音楽科教育及び音楽科教員養成**
○川畑　有佳（東京藝術大学音楽研究科）

11：00 ～ 11：30　**授業研究の国際的な伝播と循環のポリティクス**
：教育借用理論の再構築
○荻巣　崇世（東京大学）

11：30 ～ 12：00　**討論**

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 206

【自由研究発表：一般研究発表Ａ－６】教育方法・教育課程①

司会：樋口　直宏（筑波大学）

９：30 ～ 10：00　**公民科における学習と教えの責任に関する一考察**

○下地　貴樹（九州大学人間環境学研究院）

10：00 ～ 10：30　**郷土における直接的経験を基盤として構成される知識構造モデル描出の試み**

○飯島　敏文

10：30 ～ 11：00　**船戸咲子学級の「学習の基盤」形成**
―個が育つ集団

○吉村　敏之（宮城教育大学）

11：00 ～ 11：30　**科学技術リテラシー育成のための中学校数学科における STEM 領域の授業開発の枠組み**

○伊藤　伸也（金沢大学）

11：30 ～ 12：00　**新幼稚園教育要領・保育所保育指針の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」における諸能力の重層的把握**

○安部高太朗（郡山女子大学短期大学部）
　吉田　直哉（大阪府立大学）
　鈴木　康弘（八戸学院大学）

12：00 ～ 12：30　**討論**

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 207

【自由研究発表：一般研究発表Ａ－ 11】幼児教育・保育

司会：岩田　遵子（東京都市大学）

９：30 ～ 10：00　**安部富士男の保育論における飼育・栽培活動の背景にある労働観と人間観**
○吉田　直哉（大阪府立大学大学院）

10：00 ～ 10：30　**幼児期の音楽的表現の機械学習を用いた判別方法の検討**
―モーションキャプチャーデータをもとに―
○佐野　美奈（大阪樟蔭女子大学）

10：30 ～ 11：00　**ドイツの保育施設における子ども達の参画 (III)**
―シュレースヴィヒ＝ホルシュタイン州のモデルプロジェクトを観点として―
○船越　美穂（福岡教育大学）

11：00 ～ 11：30　**幼児の「主体的な学び」をとらえる評価視点に関する検討**
―Bildung（ビルドゥング）概念を手がかりとして―
○中西さやか（名寄市立大学）

11：30 ～ 12：00　**アメリカ思想の基層に位置づける欧州幼児教育**
○甲斐　仁子（東洋英和女学院大学）

12：00 ～ 12：30　**討論**

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 208

【自由研究発表：一般研究発表Ａ－ 12】初等・中等教育

司会：片岡　洋子（千葉大学）

9 ：30 ～ 10：00　**学校教育における「あいさつ」についての考察**
―ある小学校の実践を手掛かりとして―
○安部　　孝（名古屋芸術大学）

10：00 ～ 10：30　**小学校英語の新教授法**
―４技能学習にアクティブ戦略を用いて―
○大庭　茂美（九州女子短期大学名誉教授）

10：30 ～ 11：00　**現代の高校生の「食」の現状と発達支援の課題**
―高校生の声に探る―
○田部　絢子（立命館大学）
　髙橋　　智（東京学芸大学）

11：00 ～ 11：30　**公立高校の学校運営の自律性**
―京都市立高校を例として―
○秋山　吉則（京都教育センター）

11：30 ～ 12：00　**沖縄における「訪問教師」制度に関する歴史研究**
○浅田　昇平（四天王寺大学）

12：00 ～ 12：30　**討論**

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 209

【自由研究発表：一般研究発表 A － 14】教師教育

司会：和井田節子（共栄大学）

9 ：30 ～ 10：00　**実務家教員養成に関する一考察**
―大学における需要とその教育内容について―
○吉岡三重子

10：00 ～ 10：30　**初任者研修の実際から捉えた指導担当者 (メンター) の役割と課題**
○後藤　郁子（お茶の水女子大学）

10：30 ～ 11：00　**資質・能力（コンピテンシー）育成のための授業研修の検討**
○雨宮　沙織（東京学芸大学）
　下島　泰子（東京学芸大学）

11：00 ～ 11：30　**学習ログを活用した個別最適化学習の取組の評価に関する試行研究**
○小柳和喜雄（奈良教育大学大学院教育学研究科（教職大学院））

11：30 ～ 12：00　**なぜ協働型園内研修論では人間関係が主題化されるのか**
○鈴木　康弘（八戸学院大学短期大学部）
　吉田　直哉（大阪府立大学）
　安部高太朗（郡山女子大学短期大学部）

12：00 ～ 12：30　**討論**

9 ：30 ～ 11：30　西 1 号館 210

【自由研究発表：一般研究発表 A － 15】社会教育・生涯学習①

司会：上野　景三（佐賀大学）

9 ：30 ～ 10：00　**地域資源活用による実践的な地域学習のあり方に関する一考察**

○遊佐　順和（札幌国際大学短期大学部）

10：00 ～ 10：30　**高校のない山間へき地出身者の地域認識の変容**
―学校統廃合と離郷の経験に着目して―

○丹間　康仁（帝京大学）
竹井　沙織（名古屋大学大学院・学生）
小宅　優美（住田町教育委員会）
橋田　慈子（筑波大学大学院・学生）

10：30 ～ 11：00　**学校と学習塾の関係の再検討**
：「学校と学習塾を往還する教師」のライフストーリー・インタビューを通して

○鈴木　繁聡（東京大学大学院教育学研究科）

11：00 ～ 11：30　**討論**

9 ：30 ～ 12：00　西 1 号館 303

【自由研究発表：一般研究発表 A － 18】特別支援教育

司会：河合　隆平（首都大学東京）

9 ：30 ～ 10：00　**インクルーシブ教育において医療的ケア児の参加を支援する教育制度と課題**
：先進的な日本の地方自治体における制度・実践の検討を中心に
○山本　智子（国立音楽大学）

10：00 ～ 10：30　**日本のインクルーシブ教育に関する国際条約解釈の検討**
○眞鍋　優志（北海道大学大学院教育学院）

10：30 ～ 11：00　**知的障害者家族による学習を基盤にした教育環境の変革プロセス**
―日英比較の視点から―
○橋田　慈子（筑波大学大学院人間総合科学研究科教育基礎学専攻）

11：00 ～ 11：30　**長崎慈善会・野村惣四朗による濃尾震災（1891 年）の救恤義援活動と長崎盲啞院の設立**
○能田　　昴（尚絅学院大学／東京学芸大学大学院博士課程）
　髙橋　　智（東京学芸大学総合教育科学系）

11：30 ～ 12：00　**討論**

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 304

【自由研究発表：テーマ型研究発表Ｂ－４】若者の移行過程変容と学校

司会：京免　徹雄（筑波大学）

９：30 ～ 10：30　**若者支援実践の専門性を支える社会的環境**
～欧州三カ国における Youth Worker/Social Pedagogue をめぐる分析
○平塚　眞樹（法政大学）
○横井　敏郎（北海道大学）
○南出　吉祥（岐阜大学）
原　　未来（滋賀県立大学）
乾　　彰夫（首都大学東京）
岡　　幸江（九州大学）

10：30 ～ 11：30　**困難を抱えた若者に対する学習機会の多元性・重層性とそのガバナンスの現状**
―オレゴン州ポートランド市のオルタナティブ教育を事例として―
○後藤　武俊（東北大学）
○大桃　敏行（学習院女子大学）
○柴田　聡史（琉球大学）

11：30 ～ 12：00　**韓国におけるオルタナティブスクールの実態と課題**
―オルタナティブスクール卒業生の社会への移行の困難さに注目して―
○宋　　美蘭（北海道大学）

12：00 ～ 12：30　**討論**

9 ：30 ～ 12：00　西 1 号館 307

【自由研究発表：テーマ型研究発表Ｂ－８】戦後教育史の諸問題①

司会：木村　元（一橋大学）

９：30 ～ 10：00　**戦後教育改革期 IFEL の示唆した幼稚園カリキュラム開発**
―幼稚園教育班・幼年教育班講習内容の検討を中心に―
○小尾麻希子（武庫川女子大学短期大学部）

10：00 ～ 10：30　**昭和 20 年代の保育カリキュラムづくりに関する実証的研究（1）**
―名古屋市の幼稚園の場合―
○豊田　和子
清原みさ子（名古屋芸術大学（研究員））
寺部　直子（名古屋芸術大学（研究員））

10：30 ～ 11：00　**1970 年前後の夜間中学の再編を巡る考察**
―髙野雅夫に着目して―
○江口　　怜（和歌山信愛大学）

11：00 ～ 11：30　**障害児の高校進学における当事者の意志と直面する困難に関する歴史的考察**
―「大西赤人君浦高入学不当拒否事件」に焦点を当てて―
○末岡　尚文（東京大学大学院教育学研究科）

11：30 ～ 12：00　**討論**

テーマ型研究発表　8 月 7 日 水

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 308

【自由研究発表：テーマ型研究発表Ｂ－ 13】知的財産教育の研究を推進するために

司会：勝野　正章（東京大学）

9 ：30 ～ 10：00　**日本の知財教育の進展と展望**
―知的財産の教育研究の方向性を考える―
○世良　　清（三重県立津商業高等学校）

10：00 ～ 10：30　**中学校・高等学校における知財教育の実態調査**
○吉田　拓也（四天王寺学園高等学校・中学校）
若江三賀子（大阪府箕面市立第四中学校）

10：30 ～ 11：00　**知財教育における産品認証制度の活用**
：地理的表示、伝統野菜による地域観光戦略を題材に
○香坂　　玲（名古屋大学）

11：00 ～ 11：30　**成年年齢引き下げに関わる知財教育実践の再検討**
○谷口　牧子（旭川工業高等専門学校）

11：30 ～ 12：00　**知財創造思考を取り入れた学校教育のあり方に関する研究**
○上野　　翼（三菱 UFJ リサーチ＆コンサルティング株式会社）

12：00 ～ 12：30　**討論**

13：45 ～ 15：00　北 1 号館 401

総　会　議　事　次　第

Ⅰ．議長団選出

Ⅱ．大会校からの挨拶（学習院大学）

Ⅲ．日本教育学会第 78 回大会実行委員長挨拶

Ⅳ．日本教育学会会長挨拶

Ⅴ．報告事項

［1］一般会務
［2］委員会活動
［3］地区研究活動
［4］世界教育学会
［5］その他

Ⅵ．審議事項

［1］役員（会長・理事）選挙結果
［2］2018 年度決算
［3］2018 年度監査報告
［4］2019 年度予算
［5］第 79 回大会開催校
［6］その他

Ⅶ．その他

15：15 ～ 18：15　北 1 号館 201

シンポジウムⅠ（公開シンポジウム）
現代社会における教養と市民的自治

司会者：姉崎　洋一（札幌大学女子短期大学部、北海道大学（名誉教授））
　　宮盛　邦友（学習院大学）

報告者：福井　憲彦（学習院大学（名誉教授））
　　佐貫　　浩（法政大学（名誉教授））
　　梅野　正信（上越教育大学）

指定討論者：小玉　重夫（東京大学）
　　水崎　富美（女子栄養大学）
　　市山　雅美（湘南工科大学）

《趣旨》

現代社会において求められる「教養」の再構築という課題が提示されて久しい。例えば、日本学術会議が 2010 年に提出した、「現代市民社会における教養と教養教育――21 世紀のリベラル・アーツの創造」においての、「人間、自然および社会に関わって人類が共有しなければならない『知』とは何か、『知』の専門分化と膨大な発展をその根本において理解しうる基礎的な『知』とは何か。全分野を包摂する学術の地平において、これをとらえる試みが必要とされている」に見られる通りである。そうした課題の一環として、現代社会において生起し深刻化する様々な問題や課題に合理的に対応し、それらの問題や課題の解決に向けての多様な取り組みに参加・協働する知性・智恵・実践的能力の形成が求められている。それは、国民主権・市民的自治によって支えられている社会を形成するための最も重要な基盤となる。まさに、教養と自治をつなげながら掘り下げることは、歴史を通しての現代の教育改革にとって喫緊の課題であろう。

そこで、本シンポジウムでは、第一に、国際的かつ歴史的な視野から、高等教育を中心とした教養と自治の課題について、福井憲彦氏（フランス史）に、総論的な報告をしていただく。第二に、現代社会において子ども・若者が直面する市民的自立の困難さと、それを乗り越える教養のあり方を問うために、教育学分野から佐貫浩氏に報告していただく。第三に、学校教育の場での市民的教養の育成と生徒の自治の課題を中心にして、公民科教育の立場から梅野正信氏に報告していただく。また、指定討論として、政治的教養の観点から小玉重夫氏に、文化と自治の観点から水崎富美氏に、歴史的視座から市山雅美氏に、それぞれ発言していただく。

全体として、現代社会に求められている教養と市民的自治をどのように創造していくのか、について議論していきたい。

15：15 ～ 18：15　北 1 号館 401

課題研究Ⅰ
教員の働き方改革と教職の専門職性

司会者：村上　祐介（東京大学）
　　藤井　基貴（静岡大学）

報告者：樋口　修資（明星大学）
　　島田　陽一（早稲田大学）
　　佐久間亜紀（慶應義塾大学）

《趣旨》

教員の多忙化は教育学や教育関係者だけでなく、広く社会的な問題として認識されるようになっている。中央教育審議会は学校における働き方改革特別部会での審議をふまえて、2019 年 1 月に「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」（答申）を発表した。そこでは教職調整額を定めた給特法を当面維持しつつ中長期的な課題として位置付けるとともに、一年単位の変形労働時間制の導入を選択肢の一つとして打ち出すなどの提言がなされている。

教育学では、教育社会学や教育行政学の研究者がさまざまな場で教員の働き方改革に関して発信しており、その見解も多様である。一方で、教員の多忙化や今回検討されている働き方改革について、教職の専門職性という観点を絡めて教育学としてどのように考えればよいかということは、実はまだ十分に検討されていない面があるようにも思われる。また、専門職の働き方改革という問題は、教職の他に医師のそれも大きな課題となっており、そこでの議論は教員の働き方改革を考えるうえで少なからず示唆を有すると考えられる。

そこで今回の課題研究では、教員の多忙化や働き方改革についてのこれまでの経緯や中教審での議論を振り返り、その論点と課題を整理する。また、厚生労働省「医師の働き方改革に関する検討会」の委員を務めた労働法の研究者をお招きし、医師の働き方改革の経緯や論点に関して検討を行う。それらの報告をふまえて、医師などの他の専門職との異同を念頭に置きつつ、主に教職の専門職性という観点から、教師の働き方改革について考察を行うこととしたい。

プログラム　４日目

８月８日木

一　般　研　究　発　表　【A】

テ ー マ 型 研 究 発 表　【B】

新学会理事会発足確認の会（臨時社員総会）

シンポジウムⅡ（公開シンポジウム）

課　　題　　研　　究　　Ⅱ

9 ：30 ～ 12：00　西 1 号館 104

【自由研究発表：一般研究発表Ａ－１】教育理論・思想・哲学②

司会：山内　紀幸（山梨学院短期大学）

９：30 ～ 10：00　**教育開発において生み出されるサバルタンの失語状態とそのメカニズムの哲学的解明**

○虞（YU）　嘉琦（JIAQI）（広島大学教育学研究科）

10：00 ～ 10：30　**18-19 世紀転換期ドイツ語圏における児童への言語教育の方法の展開 F. キットラーと J. ランシエールの議論を手がかりに**

○松井　健人（東京大学大学院教育学研究科）

10：30 ～ 11：00　**教育学におけるエンハンスメント技術批判への反論 ―テクノ進歩派はエンハンスメント技術をどのように正当化しているか**

○堀内進之介

11：00 ～ 11：30　**幼児期における芸術鑑賞に関する考察**

○石田　真夕（京都大学教育学研究科教育学環専攻）

11：30 ～ 12：00　**討論**

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 106

【自由研究発表：一般研究発表Ａ－２】教育史

司会：逸見　勝亮（北海道大学（名誉教授））

９：30 ～ 10：00　**総力戦・戦時動員体制下の初等教育改革と「特別な教育的対応・配慮」の拡充に関する研究動向レビュー**

○石井　智也（日本福祉大学スポーツ科学部）
　高橋　　智（東京学芸大学）

10：00 ～ 10：30　**戦後教育改革期の教育測定と教育評価**

○松本　和寿（筑紫女学園大学）

10：30 ～ 11：00　**何が科目の形成をもたらすのか**
：1940-50 年代の地学教育振興運動における地質学者小林貞一の役割

○山田　俊弘（大正大学（非常勤講師））

11：00 ～ 11：30　**愛知県公立高等学校における男女共学に関する考察**

○佐藤　実芳（愛知淑徳大学）

11：30 ～ 12：00　**1970 年代以降の自治体教育行政における郷土教育の展開**
：鹿児島県の事例から

○杉浦ちなみ（石巻専修大学人間学部）

12：00 ～ 12：30　**討論**

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 107

【自由研究発表：一般研究発表Ａ－３】学校制度・経営

司会：本図　愛実（宮城教育大学）

９：30 ～ 10：00　**教員の「働き方」問題の画期としての 1970 年代**
：給特法条例化闘争を中心に
○平井貴美代（山梨大学大学院総合研究部）

10：00 ～ 11：00　**学校業務の委託に関する教員の意識**
―教員はどの学校業務を委託したいと考えているのか―
○白旗希実子（東北公益文科大学）
○石井　美和（東北文教大学短期大学部）
○荒井英治郎（信州大学）

11：00 ～ 11：30　**管理職の学校経営への意識変容**
―シンガポール日本人学校を事例に―
○中島ちさと（筑波大学大学院）

11：30 ～ 12：00　**大阪市各区の学校選択制の利用率と地域背景の関係**
○濱元　伸彦（京都造形芸術大学）

12：00 ～ 12：30　**討論**

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 206

【自由研究発表：一般研究発表Ａ－５】比較・国際教育②

司会：杉村　美紀（上智大学）

9 ：30 ～ 10：00　1970 年代の韓国における「道徳」の教科化
―戦前「修身」からの連続性―
○関根　明伸（国士舘大学体育学部）

10：00 ～ 11：00　韓国大邱市英語教員支援計画に関する一考察
―指導力向上への取り組みを通して―
○山本　元子（常磐会学園大学）
○韓　　在熙（四天王寺大学 短期大学部）

11：00 ～ 11：30　親の実力不足？
―中国における農民工子女の公教育アクセスをめぐる政策動向
○万　　奕（九州大学）

11：30 ～ 12：00　国際化・グローバル化対応の教育政策にみる目指す人物像の変遷
審議会答申に焦点を当てて―
○菊地かおり（筑波大学）
鎌田　公寿（常葉大学）
坂口　真康（兵庫教育大学）
藤井　大亮（東海大学）
羽田野真帆（常葉大学）

12：00 ～ 12：30　討論

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 207

【自由研究発表：一般研究発表Ａ－６】教育方法・教育課程②

司会：子安　潤（中部大学）

９：30 ～ 10：00　**丸木政臣の生活教育実践**

○山口　一典（学習院大学大学院人文科学研究科教育学専攻博士後期課程）

10：00 ～ 10：30　**1960 ～ 70 年代の保育における「科学遊び」の方法と内容**

○福元真由美（東京学芸大学）

10：30 ～ 11：00　**台湾の小学校国語における学びの共同からの考察**
―日本の国語教育はこれからどう転換するのか

○小池由美子（大東文化大学）

11：00 ～ 11：30　**90 年代以降のドイツにおける価値教育（Werterziehung）に対する教授学的批判**
―ハイト（H. Heid）の議論を中心にして―

○平岡　秀美（筑波大学大学院）

11：30 ～ 12：00　**主体的で対話的で深い学びの実現に向けた概念的装置としての学校図書館の役割**

○前田　　稔（東京学芸大学）

12：00 ～ 12：30　**討論**

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 208

【自由研究発表：一般研究発表Ａ－ 13】高等教育・中等後教育

司会：光本　滋（北海道大学）

９：30 ～ 10：00　**現代農業高校の再検討**
―農業教育者の育成に着目して
○中西　啓喜（早稲田大学）
　西原　是良（早稲田大学）

10：00 ～ 11：00　**大規模私立大学における内部質保証システムの有効性**
―立命館大学および関西大学の事例検討を通じて―
○鳥居　朋子（立命館大学教育開発推進機構）
○森　　朋子（関西大学）

11：00 ～ 11：30　**戦後日本のキリスト教系大学における学生運動**
――学生新聞を用いた学校間比較による分析
○齋藤　崇徳（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）

11：30 ～ 12：00　**フランスにおける大学連携・統合**
：「成功」と「失敗」の事例の研究
○大場　　淳（広島大学高等教育研究開発センター）

12：00 ～ 12：30　**討論**

9 ：30 ～ 12：00　西 1 号館 209

【自由研究発表：一般研究発表Ａ－ 15】社会教育・生涯学習②

司会：平川　景子（明治大学）

9 ：30 ～ 10：00　**近年の家庭教育政策に対する批判のあり方をめぐる問題**
―親の「第一義的責任」の位置づけ
○丸山　啓史（京都教育大学）

10：00 ～ 10：30　**放課後等デイサービスの現状と教育的課題**
○中村　智帆（同志社大学）

10：30 ～ 11：00　**物流関連企業におけるロジスティクス教育の実践についての一考察**
○鈴木　邦成（日本大学生産工学部）

11：00 ～ 11：30　**県立図書館の成立過程における近世の読書施設の影響について**
○伊東　達也（山口大学人文学部）

11：30 ～ 12：00　**討論**

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 210

【自由研究発表：テーマ型研究発表Ｂ－2】学校のリアリティと教育改革の課題

司会：佐藤　修司（秋田大学）

9 ：30 ～ 10：00　**日本の大都市における授業づくりの支援と学校改善の検討**
○黒田　友紀（日本大学理工学部）

10：00 ～ 10：30　**越境を通じた創発による地域活性化**
―聴き書きの事例研究―
○畑井　克彦（芦屋大学教育学部）

10：30 ～ 11：00　**教育行政が有するデータを利用した教育格差の実態把握**
○川口　俊明（福岡教育大学教育学部）

11：00 ～ 11：30　**普通教育機会確保法成立後のフリースクールから見た教育の変化と今後の意展開**
○奥地　圭子（NPO 法人東京シューレ）
　中村　国生（東京シューレ）

11：30 ～ 12：00　**「新しい都市型高等学校（NUHS）」プロジェクトの形成と展開**
―学校改革における「学校から仕事へ（school-to-work）」の位相―
○鈴木　悠太（東京工業大学）

12：00 ～ 12：30　**討論**

9 ：30 ～ 12：00　西 1 号館 303

【自由研究発表：テーマ型研究発表Ｂ－８】戦後教育史の諸問題②

司会：田嶋　一（國學院大学（名誉教授））

9 ：30 ～ 10：00　**西尾実のコミュニケーション教育論「健全な世論の形成」の方向性**
―話し言葉と文化の関係を中心に―
○渡辺　通子（東北学院大学）

10：00 ～ 10：30　**1960 年代前半における子ども研究の可能性**
―現代子どもセンターの「児童文化」論を手がかりに―
○渡邊　真之（東京大学大学院教育学研究科）

10：30 ～ 11：00　**「学力」と「知能」の相関関係における地方調査の歴史**
○北野　秋男（日本大学）

11：00 ～ 11：30　**大田堯の「生命（いのち）」の思想と道徳教育**
―自己の超越、他者・自然との共生の視点から―
○小幡　啓靖（実践倫理宏正会）

11：30 ～ 12：00　**討論**

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 304

【自由研究発表：テーマ型研究発表Ｂ－９】教育学の問い直し

司会：小玉　亮子（お茶の水女子大学）

９：30 ～ 10：30　**AI 技術文明時代の教育可能性とエンハンスメント**
○鈴木　晶子（京都大学大学院教育学研究科）
○中村　泰介（園田学園女子大学）
○堀　　雄紀（京都大学大学院・学生）

10：30 ～ 11：00　**学習科学をめぐるドイツ教育学・教育科学分野での論議**
○津田　純子

11：00 ～ 11：30　**公教育における「無知な教師」の可能性**
―J・ランシエール「知性の平等」に着目して
○赤嶺　洋道（沖縄県内公立学校非常勤職員）

11：30 ～ 12：00　**子ども一人ひとりの経験に目を向けること**
○守屋　　淳（北海道大学大学院教育学研究院）

12：00 ～ 12：30　**討論**

9 ：30 ～ 12：30　西 1 号館 307

【自由研究発表：テーマ型研究発表Ｂ－ 10】子ども問題と教育・福祉

司会：堀家由妃代（仏教大学）

９：30 ～ 10：00　**米国における読み書き障害に関する指導法の導入と成果をめぐる言説の検討**

○村山　　拓（東京学芸大学）

10：00 ～ 11：00　**北欧における子ども虐待の実態と防止支援システムの研究**
―北欧５ヵ国の「子ども虐待対応センター Barnahus」等の訪問調査から―

○石川　衣紀（長崎大学教育学部）
　田部　絢子（立命館大学産業社会学部）
○内藤　千尋（松本大学教育学部）
　石井　智也（日本福祉大学スポーツ科学部）
　能田　　昴（尚絅学院大学心理・教育学群）
　柴田　真緒（埼玉県立所沢特別支援学校）
　池田　敦子（東海学院大学人間関係学部）
　高松　健太（東京学芸大学大学院・学生）
　田中　裕己（東京学芸大学特別支援教育特別専攻科・学生）
○高橋　　智（東京学芸大学総合教育科学系）

11：00 ～ 12：00　**3・11 後の教育実践**
～日教組教育研究全国集会リポートの分析から～

○大森　直樹（東京学芸大学）
○大橋　保明（名古屋外国語大学）

12：00 ～ 12：30　**討論**

9 ：30 ～ 11：00　西 1 号館 308

【自由研究発表：テーマ型研究発表 B － 14】Educational Issues from Global Perspectives（English Session）

司会：高橋　史子（東京大学）

9：30 ～ 10：00　What can universities do for teacher employment exams?
○ OGUCHI Isao（近畿大学教職教育部）

10：00 ～ 10：30　**教育政策の海外移転**
：教師教育を事例に
○小野由美子（早稲田大学教師教育研究所）
前田　美子（大阪女学院大学）

10：30 ～ 11：00　Discussion

13：15 ～ 16：15　北 1 号館 308

シンポジウムⅡ（公開シンポジウム）
持続可能な社会と教育

司会・進行：小玉　敏也（麻布大学）
　　諏訪　哲郎（学習院大学）

地球温暖化に伴う豪雨災害の激甚化などの生態的な持続可能性の危機、世界全体で進行する格差の拡大や日本における少子高齢化に伴う地域の活力低下といった社会的な持続可能性の危機。これらの危機が深刻さを増す中で、2015 年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された SDGs（持続可能な開発目標）には、政府や NPO ばかりでなく産業界も同調し、持続可能な社会の構築に向けた大きな潮流が生まれている。SDGs17 のゴールの 4 番目のゴールには「質の高い教育」が掲げられている。また、新学習指導要領では「持続可能な社会の創り手」を育むことが学校教育の目標と前文に書かれるとともに、高等学校の社会科系必修科目などで「持続可能な社会」が大きく取り上げられている。本シンポジウムでは、持続可能な社会の構築に教育がどのように貢献しうるのか、そのために教育がどのように変わるべきか、教育と社会の連携を一層進めるためには何が求められているのか、などについての議論を深めることを目指す。

◇開会挨拶
シンポジウム開催の経緯と趣旨説明（諏訪哲郎）
　生態的・社会的な持続可能性が喫緊の課題となっている今日、教育の役割が増大している。『事典 持続可能な社会と教育』刊行の協力団体からのプレゼンとゲストよるスピーチを軸に構成した。後半の「えんたくん」ミーティングにおける参加者からの有益な提言も期待している。
◇プレゼンテーション
持続可能な地域づくりと社会教育・生涯学習（秦範子：日本社会教育学会）
　誰一人取り残されない持続可能な地域をつくるためには多様な生活課題・地域課題の解決に向けた社会教育・生涯学習の役割がますます重要となる。持続可能な地域づくりと社会教育・生涯学習の今後の展望について具体的に提案する。
多文化共生社会と ESD（曽我幸代：日本国際理解教育学会）
　グローバル化の進展にともない、異文化をもつ他者との共生は必然である。多文化共生社会の形成に向けて、教育がどのように変わっていくことが求められているのかを ESD の視点から提案する。
持続可能な社会の構築と教師教育（安藤知子：日本学校教育学会）
　持続可能な社会の創り手を育てるために、学校も教師も変わることを求められている。新たな教師の専門性とは何かを展望しつつ、これからの教師教育の課題と方向性について提案する。
SDGs・NPO・教育（星野智子：SDGs 市民社会ネットワーク）
　SDGs 策定には多くの国際的な市民社会組織が関わってきた。今、各地では NPO も普及啓発にも取り組んでいる。SDGs がどのように教育に効果が期待できるか、考案する。
経済界の動向を踏まえた持続可能な社会と教育（関正雄：日本環境教育学会）
　国内外で企業が SDGs への関与を強めている。SDGs 達成には企業が駆動力となった、社会経済のトランスフォーメーションが必要とされる。そうした SDGs 時代の新しい教育のあり方を考える。

シンポジウムⅡ　8月8日 木

◇ゲストスピーチ

持続可能な社会と教育のグランドデザイン（合田哲雄：文部科学省）

新学習指導要領では、「持続可能な社会の構築」が学校教育の目的に明示された。その実質化のためにどのようなグランドデザインが求められているのかを、教育行政の立場から展望する。

教育の人類史的大転換を前にして（多田孝志：金沢学院大学）

今進行し始めた教育改革は文明の発生に匹敵する人類史上の大転換をもたらす可能性を秘めている。競争を基調にした社会から共創の社会への大転換をもたらす教育に求められているものを提起する。

◇参加者タイム（ファシリテーター：諏訪哲郎、栗原清（学習院大学））

「えんたくん」ミーティング⇒グループ提言

◇閉会挨拶：（小玉敏也）

13：15 ～ 16：15　北 1 号館 401

課題研究Ⅱ　教育とシティズンシップ：グローバルな社会における人びとのエンパワメントに向けて

司会者：堀本麻由子　（東海大学）
　　菊地かおり　（筑波大学）

シンポジスト：カン・デジュン　（ソウル国立大学）
　　北山夕華　（大阪大学）
　　古田雄一　（大阪国際大学短期大学部）

指定討論者：小玉重夫　（東京大学）
　　ハリー・ボイト　（アウグスバーグ大学）

《趣旨》

昨年の課題研究Ⅱでは、米国からハリー・ボイト（Harry Boyte）氏を招き、今日要請されるシティズンシップ教育の新たな展開について検討を行った。その背景には、グローバル時代の公教育が、新自由主義による市場の優位と伝統的な社会民主主義による官僚統制の台頭という 2 つの社会的圧力にさらされているという認識があった。シティズンシップ教育もこれらの構造的な変化と密接に関係しており、両者を乗り越えるような生産的なシティズンシップの重要性が見出された。

本年は、昨年の課題研究 II の問題関心を引き継ぎつつ、グローバルな社会に生きる人びとをエンパワーするような「社会とつながる学び」を基軸としたシティズンシップ教育について議論を深めたい。現代社会では、グローバルな諸課題（排外主義の拡大や民主主義の危機、格差、テロリズム、移民・難民をめぐる対応等）が深刻化しており、多様な背景をもつ人びとが互いの声に耳を傾けながら、協同的な学習を通して解決の方向性を見出すことがますます重要になってきている。本課題研究では、日本及び諸外国における、市民が参加と協同を通じて社会をともに創り出そうとする教育／学習活動に着目し、政策及び実践を通じてどのように人びとのエンパワメントを実現しようとしているのかを検討する。なお、本課題研究は、通訳をつけない英語のみでの開催を予定している。

13：15 ～ 16：15　北 1 号館 401

Research Session Ⅱ　Education and Citizenship: Empowering People for a Global Society

Session Chair：Mayuko Horimoto（Tokai University）
Kaori Kikuchi（University of Tsukuba）

Symposiast：Dae Joong Kang（Seoul National University）
Yuka Kitayama（Osaka University）
Yuichi Furuta（Osaka International College）

Discussant：Shigeo Kodama (The University of Tokyo)
Harry Boyte（The Sabo Center for Democracy and Citizenship at Augsburg University）

《Summary》

Public education in the global era faces two social pressures; one is the preeminence of the market initiated by neo-liberalism and the other is the rise of bureaucratic control defended by the old type of social democracy. Citizenship education is closely related to these structural changes. We invited Dr. Harry Boyte from Augsburg University, the United States to research session Ⅱ in 2018 and examined a new paradigm of citizenship education. During the session, we identified the significance of productive citizenship for overcoming the structural changes in our global society.

Based on the discussion last year, this year's session will further explore the issue of citizenship education, with a particular focus on community-based learning to empower people living in a global society. We face various global issues today, including the expansion of xenophobia, a crisis in democracy, poverty, terrorism, and immigration and refugee issues. It is critical that people from different backgrounds listen to and learn from each other and work collaboratively to discover solutions to these problems. In this session, we focus on several educational/learning initiatives in Japan and overseas which aim to encourage citizens to build a society, and further, we examine how these policies and practices address the empowerment of the people.

*This session is to be held in English only with no interpretation.

Ⅳ　学会事務局からのお知らせ

日本教育学会　特別課題研究・課題研究委員会・地区研究活動
報告書・資料集頒布のお知らせ

○特別課題研究

101	教育改革の総合的研究　第 1 集	［2001 年 8 月］	500 円
102	教育改革の総合的研究　第 2 集	［2002 年 8 月］	500 円
104	教育改革の総合的研究　第 4 集	［2004 年 8 月］	800 円
203	教師教育の再編動向と教育学の課題　研究集録〈2〉	［2006 年 8 月］	500 円
301	教育改革の国際比較	［2007 年 9 月］	3,400 円
302	教育研究における東アジアの歴史認識	［2009 年 8 月］	500 円
303	東アジアの教育－その歴史と現在－（資料集）	［2011 年 8 月］	500 円
304	東アジアの教育－その歴史と現在－（最終報告書）	［2012 年 8 月］	500 円
305	現職教師教育カリキュラムの教育学的検討	［2012 年 9 月］	500 円
309	東日本大震災と教育 －原発・エネルギー問題の教育実践課題を中心として－	［2013 年 2 月］	無料
310	「戦後教育学の遺産」の記録（資料集 No.2）	［2013 年 2 月］	500 円
401	スクール・セクハラ問題の総合的研究	［2017 年 5 月］	500 円

○課題研究委員会

Ｄ－２	「人間の尊厳と共生」の教育研究（平和教育・環境教育資料付）	［2002 年 8 月］	500 円
Ｅ－１	「学級・学校経営の今後のあり方を探るための調査」の結果〔最終報告〕 ―学級崩壊現象の克服に向けて―	［2002 年 9 月］	1,200 円

○地区研究活動

東北－ 11	新しい時代の学校システムを考える ―教育のグローバル化への国際バカロレア（IB）の可能性―	［2017 年 3 月］	300 円
東北－ 12	新しい時代の学校システムを考える―大学と地域連携の新たな課題―	［2018 年 3 月］	300 円
東北－ 13	新しい時代の学校システムを考える―大学入試改革の理念と実態―	［2019 年 3 月］	300 円
関東－ 1	学校での人権侵害としてのセクシャル・ハラスメントをどう防ぐか	［2006 年 8 月］	300 円
関東－ 3	中学生・高校生のセクシュアル・マイノリティの子どもたちと教育に関する研究・実践動向／男女共学制下のジェンダー平等教育―北関東諸県を中心に―	［2009 年 8 月］	300 円

学会事務局からのお知らせ

関東－ 4　シンポジウム「環境教育の新たな展開と課題」　［2011 年 6 月］　300 円
関東－ 5　教員養成において教育学教育の果たす役割　［2012 年 8 月］　300 円
関東－ 6　スクール・セクハラ問題と教育学の課題　［2013 年 3 月］　300 円
関東－ 7　見えない学力格差の是正―子どもの放課後の学びの支援―
［2014 年 5 月］　300 円
関東－ 8　学校教育とセクシュアリティ問題
―多様な性と教育にどう向き合うか―　［2017 年 7 月］　300 円
中部－ 1　教養と学力　［2011 年 6 月］　300 円
近畿－ 8　災害の記憶と教育―阪神・淡路大震災の想起と追想をめぐる討議―
［2013 年 7 月］　300 円
近畿－ 9　私の教師生活 4 －戦後教育実践に学ぶ－　［2017 年 8 月］　300 円
近畿－ 10　私の教師生活 5―戦後教育実践に学ぶ―　［2018 年 6 月］　300 円
中国－ 7　教育学研究の意味と課題を考える－日独の比較－　［2006 年 6 月］　300 円
中国－ 9　全国学力調査を教育の改善にどう生かすか／教育研究の細分化は何をもたらしたか（公開シンポジウム・研究会 成果報告書）　［2008 年 4 月］　300 円
中国－ 11　リスク社会の捉え直しと教育の課題　［2013 年 7 月］　300 円
中国－ 12　次世代の教師を育てる教員養成関連授業の可能性－教育学と教科教育学の対話と協働－　［2015 年 8 月］　300 円
中国－ 13　社会保障と教育の接続をめぐって　［2018 年 3 月］　300 円
中国－ 14　地域課題に教育学はどう応答するか―島根県「高校魅力化プロジェクト」を焦点に―　［2019 年 4 月］　300 円
四国－ 11　「日常」と教育理論－教育学的「実験」国家としての旧東ドイツ
［2017 年 6 月］　300 円

申し込み方法

・本大会期間中、学会事務局ブースにて一部販売いたします。当日販売していないものにつきましても注文をお受けしております。
・大会終了後は、下記申込先まで希望する冊子の番号・記号と送付先住所をお知らせください。報告書送付時に、代金と送料実費をご請求しますので、郵便振替にてご送金ください。なお、請求書類が必要な場合は、申し込み時に種類と書式等をお知らせください。
・このリストは 2019 年 5 月現在のものです。

申込先：日本教育学会事務局
電　話　　03-3253-6630
ＦＡＸ　　03-3254-0477
E-MAIL　jimu ＠ jera.jp
住　所　　〒 101-0041 東京都千代田区神田須田町 2-15-2 クレアール神田 102

新刊

文部科学省の解剖

青木栄一編著

A5・上製・二九六頁・三二〇〇円

文科省は三流官庁か？幹部職員に対する初の意識サーベイ。官邸、他省庁、地方自治体等との関係、庁舎内の部署配置、幹部職員人事等のリアルな分析を通して、文部省／科技庁の統合後のガバナンスの行方等、俗説を排する文科省の組織構造の全貌を捉えた初の本格的実証研究。巻末に調査資料掲載。

新刊

いま、教育と教育学を問い直す

―教育哲学は何を究明し、何を展望するか

森田尚人・松浦良充編著

A5・上製・三四四頁・三二〇〇円

新刊

教育的関係の解釈学

刊行即重版！

坂越正樹監修　丸山恭司・山名淳編

A5・上製・二八〇頁・二八〇〇円

新刊

教育哲学のデューイ

―連環する二つの経験

田中智志編著

A5・上製・三八四頁・三二〇〇円

新刊

「主体的・対話的で深い学び」の理論と実践

遠藤孝夫編著

A5・並製・二八〇頁・二六〇〇円

新刊

文字と音声の比較教育文化史研究

添田晴雄著

A5・上製・四〇〇頁・四八〇〇円

新刊

韓国の現代学校改革研究

―1990年代後半の教師たちを中心とした新しい学校づくり

申智媛著

A5・上製・三三六頁・四二〇〇円

新刊

ハーバード法理学アプローチ

―高校生に論争問題を教える

渡部竜也・溝口和宏・橋本康弘・三浦朋子・中原朋生訳

A5・並製・五〇四頁・三九〇〇円

新刊

塾：私的補習ルールの国際比較

M・ブレイ／O・クウオ著　森・早坂・佐久間・田中・高嶋・大和訳

A5・並製・一八四頁・二〇〇〇円

新刊

附属新潟中式「主体的・対話的で深い学び」をデザインする「学びの再構成」

新潟大学教育学部附属新潟中学校研究会編著

B5・並製・一〇四頁・一三〇〇円

ネオリベラル期教育の思想と構造

―書き換えられた教育の原理

福田誠治著

A5・上製・六六四頁・六二〇〇円

空間と時間の教育史

―アメリカの学校建築と時間割からみる

宮本健市郎著

A5・上製・五八四頁・四八〇〇円

現代ベトナム高等教育の構造

―国家の管理と党の領導

関口洋平著

A5・上製・三二八頁・三九〇〇円

とがびアートプロジェクト

―中学生が学校を美術館に変えた

茂木一司編集代表　菊判・並製・二六四頁・二四〇〇円

新刊

大学の組織とガバナンス【高等教育研究論集第1巻】

羽田貴史著

A5・上製・二三六頁・三五〇〇円

世界の大学と比べ遅れを取っている日本の大学は、研究の質的・量的劣化と大学の組織運営に問題がある。本書は大学の組織・運営と大学人論等の多様な視点から切り込んだ、第一級の大学組織・ガバナンス研究であり、大学学長や理事をはじめ、関係者必読の高等教育研究論集第1巻。

新刊

長期学外学修のデザインと実践

―学生をアクティブにする

澤邉潤・木村裕斗・松井克浩編著

A5・上製・三三六頁・三二〇〇円

新刊

留学生とともに学ぶ国際共修

―効果的な授業実践へのアプローチ

末松和子・秋庭裕子・米澤由香子編著

A5・上製・三二八頁・三二〇〇円

新刊

グローバルに問われる日本の大学教育成果

加藤真紀・喜始照宣著

A5・上製・二一六頁・二八〇〇円

新刊

大学教育における高次の統合的な能力の評価

―量的な質的、直接な間接の二項対立を超えて

斎藤有吾著

A5・上製・一八四頁・二八〇〇円

新刊

大学におけるライティング支援

―どのように〈書く力〉を伸ばすか

関西大学ライティングラボ・津田塾大学ライティングセンター編

A5・並製・二四〇頁・二四〇〇円

新刊

幼児教育系学生のための日本語表現法

―保育実践力の基礎をつくる初年次教育

久保田英助・大岡紀理子編　森下稔監修

A5・並製・一六八頁・一五〇〇円

新刊

主体的学び　6号

特集：いま、なぜ教養教育が必要なのかを問う

主体的学び研究所編

A5・並製・一七六頁・一八〇〇円

新刊

検証　国立大学法人化と大学の責任

―その制定過程と大学自立への構想

田中弘允・佐藤博明・田原博人著

A5・上製・五二八頁・三七〇〇円

新刊

大学生白書　2018

―今の大学教育では学生を変えられない

溝上慎一著

A4・並製・一六〇頁・二八〇〇円

溝上慎一著　学びと成長の講話シリーズ（各四六・並製、続刊）

①アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性　一八四頁・一〇〇〇円

②学習とパーソナリティ―「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよね！」をどう見るか　二四八頁・一六〇〇円

越境ブックレットシリーズ（各A5・並製、続刊）

新刊

⓪教育の理念を象る―教育の知識論序説　田中智志　一六〇頁・一二〇〇円

新刊

①知識論―情報クラウド時代の〝知る〟という営み　山田肖子　一二〇頁・一〇〇〇円

〒113-0023 東京都文京区向丘1-20-6
http://www.toshindo-pub.com
東信堂
TEL03-3818-5521　FAX03-3818-5514
Email tk203444@fsinet.or.jp

［価格税別］

教育課程を学ぶ
山田恵吾/藤田祐介/貝塚茂樹/関根明伸著　2400円

主体的・対話的に深く学ぶ算数・数学教育
小寺隆幸編著●コンテンツとコンピテンシーを見すえて　2800円

新しい数学教育の理論と実践
岩崎秀樹/溝口達也編著　2800円

楽しく豊かな道徳科の授業をつくる2
牧﨑幸夫/広岡義之/杉中康平編　2500円

ここから始める「憲法学習」の授業
長瀬拓也/杉浦真理/奥野浩之/渡辺暁彦/松森靖行編著
●児童生徒の深く豊かな学びのために　2600円

よくわかるインクルーシブ教育
湯浅恭正/新井英靖/吉田茂孝編著　2500円

新しい時代の生徒指導・キャリア教育
和田 孝/有村久春編著　2400円

びわ湖のほとりで35年続くすごい授業
山田奨治/滋賀大学教育学部附属中学校著
●滋賀大附属中学校が実践してきた主体的・対話的で深い学び　2200円

あの子どもたちが変わった驚きの授業
木原雅子著●授業崩壊を立て直すファシリテーション　1800円

授業研究のフロンティア
吉崎静夫監修　村川雅弘/木原俊行編著　3000円

初等中等教育におけるICT活用
日本教育工学会監修　高橋 純/寺嶋浩介編著　2700円

探究の過程における **すぐ実践できる情報活用スキル55**
塩谷京子著●単元シートを活用した授業づくり　2400円

大学生のためのキャリアデザイン **はじめての課題解決型プロジェクト**
松田剛典/佐伯 勇/木村亮介編著　2000円

キャンパスライフ サポートブック
香月菜々子/古田雅明著●こころ・からだ・くらし　2000円

「学校」を生きる人々のナラティヴ
山本智子編著●子どもと教師・スクールカウンセラー・保護者の心のずれ　2600円

支援が困難な事例に向き合う発達臨床
別府悦子/香野 毅編著●教育・保育・心理・福祉・医療の現場から　2400円

困っている子の育ちを支えるヒント
井澗知美著●発達の多様性を知ることでみえてくる世界　2200円

これだけは知っておきたい **小学校教師のための算数と数学15講**
溝口達也/岩崎秀樹編著　2200円

わかる！ 小学校の先生のための統計教育入門
坂谷内 勝著　2200円

木村素衛「表現愛」の人間学
門前斐紀著●「表現」「形成」「作ること」の身体論　6500円

近代日本における「受験」の成立
吉野剛弘著●「資格」試験から「選抜」試験へ　5400円

MINERVAはじめて学ぶ教職（全20巻）既刊

吉田武男監修　B5判美装カバー/各2200円

①**教育学原論**
滝沢和彦編著
②**教職論**
吉田武男編著
③**西洋教育史**
尾上雅信編著
④**日本教育史**
平田諭治編著
⑤**教育心理学**
濱口佳和編著
⑥**教育社会学**
飯田浩之/岡本智周編著
⑦**社会教育・生涯学習**
手打明敏/上田孝典編著
⑧**教育の法と制度**
藤井穂高編著
⑨**学校経営**
浜田博文編著
⑩**教育課程**
根津朋実編著
⑪**教育の方法と技術**
樋口直宏編著
⑫**道徳教育**
田中マリア編著
⑯**教育相談**
高橋真人/前田基成/服部 環/吉田武男編著
⑱**特別支援教育**
――共生社会の実現に向けて
小林秀之/米田宏樹/安藤隆男編著
⑲**キャリア教育**
藤田晃之編著

＊　＊　＊　＊

〈別巻〉**現代の教育改革**　徳永 保編著　2600円

MINERVAはじめて学ぶ教科教育（全10巻＋別巻1）既刊

吉田武男監修　B5判美装カバー/各2200円

①**初等国語科教育**
塚田泰彦/甲斐雄一郎/長田友紀編著
②**初等算数科教育**
清水美憲編著
③**初等社会科教育**
井田仁康/唐木清志編著
④**初等理科教育**
大髙 泉編著
⑤**初等外国語教育**
卯城祐司編著
⑥**初等図画工作科教育**
石﨑和宏/直江俊雄編著
⑦**初等音楽科教育**
笹野恵理子編著
⑨**初等体育科教育**
岡出美則編著
⑩**初等生活科教育**
片平克弘/唐木清志編著

アクティベート教育学（全15巻）既刊

汐見稔幸/奈須正裕監修　A5判美装カバー/各2000円

②**現代の教師論**　佐久間亜紀/佐伯 胖編著
⑤**教育制度を支える教育行政**　青木栄一編著
⑦**特別支援教育**　廣瀬由美子/石塚謙二編著

新しい教職教育講座　教職教育編（全13巻）既刊

原 清治/春日井敏之/篠原正典/森田真樹監修
A5判美装カバー/各2000円

②**教職論**
久保富三夫/砂田信夫編著
④**教育心理学**
神藤貴昭/橋本憲尚編著
⑤**特別支援教育**
原 幸一/堀家由妃代編著
⑥**教育課程・教育評価**
細尾萌子/田中耕治編著
⑦**道徳教育**
荒木寿友/藤井基貴編著
⑧**総合的な学習の時間**
森田真樹/篠原正典編著
⑨**特別活動**
中村 豊/原 清治編著
⑩**教育の方法と技術**
篠原正典/荒木寿友編著
⑪**生徒指導・進路指導**
春日井敏之/山岡雅博編著
⑫**教育相談**
春日井敏之/渡邉照美編著
⑬**教育実習・学校体験活動**
小林 隆/森田真樹編著

新しい教職教育講座　教職教育編（全10巻）

原 清治/春日井敏之/篠原正典/森田真樹監修
A5判美装カバー/各2000円

①**初等国語科教育**
井上雅彦/青砥弘幸編著
②**初等社会科教育**
中西 仁/小林 隆編著
③**算数科教育**
岡本尚子/二澤善紀/月岡卓也編著
④**初等理科教育**
山下芳樹/平田豊誠編著
⑤**生活科教育**
鎌倉 博/船越 勝編著
⑥**初等音楽科教育**
――保幼小の確かな連携をめざして
高見仁志編著
⑦**図画工作科教育**
波多野達二/三宅茂夫編著
⑧**初等家庭科教育**
三沢徳枝/勝田映子編著
⑨**初等体育科教育**
石田智巳/山口孝治編著
⑩**初等外国語教育**
湯川笑子編著

よくわかる！教職エクササイズ　既刊

森田健宏/田爪宏二監修　B5判美装カバー

①**教育原理**
島田和幸/髙宮正貴編著　2200円
②**教育心理学**
田爪宏二編著　2200円
③**教育相談**
森田健宏/吉田佐治子編著　2200円
⑤**特別支援教育**
石橋裕子/林 幸範編著　2200円
⑥**学校教育と情報機器**
堀田博史/森田健宏編著　2200円
⑧**学校保健**
柳園順子編著　2500円

ミネルヴァ書房
〒607-8494 京都市山科区日ノ岡堤谷町1＊表示価格税別　目録呈
TEL 075-581-0296 FAX 075-581-0589 www.minervashobo.co.jp/

シリーズ―子どもの貧困

シリーズ編集代表　松本伊智朗

① 生まれ、育つ基盤
子どもの貧困と家族・社会
松本伊智朗・湯澤直美［編著］

② 遊び・育ち・経験
子どもの世界を守る
小西祐馬・川田 学［編著］

③ 教える・学ぶ
教育に何ができるか
佐々木宏・鳥山まどか［編著］

④ 大人になる・社会をつくる
若者の貧困と学校・労働・家族
杉田真衣・谷口由希子［編著］

⑤ 支える・つながる
地域・自治体・国の役割と社会保障
山野良一・湯澤直美［編著］

子どもとかかわるすべての人に

子どもの貧困の再発見から10年。この10年間の政策・実践・研究を批判的に検討し、〝子どもの貧困を議論する枠組み〟を提供する。新・スタンダードの誕生！

全5巻
A5判／並製／各2500円

諸外国の生涯学習 文部科学省 編著 ◎3600円

国際化のなかのスキル形成
グローバルバリューチェーンは雇用を創出するのか
経済協力開発機構（OECD）編著　菅原良 監訳 ◎3700円
髙橋南海子、奥原俊、坂本文子、神崎秀嗣、松下慶太、竹内一真 訳

OECD保育の質向上白書
人生の始まりこそ力強く:ECECのツールボックス
OECD 編著　秋田喜代美、阿部真美子、一見真理子、門田理世、北村友人、鈴木正敏、星三和子 訳 ◎6800円

社会情動的スキル 学びに向かう力
経済協力開発機構（OECD）編著　ベネッセ教育総合研究所 企画・制作
無藤隆、秋田喜代美 監訳　荒牧美佐子、都村聞人、木村治生、高岡純子、真田美恵子、持田聖子 訳 ◎3600円

外国人児童生徒受入れの手引【改訂版】
文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課 編著 ◎800円

新 多文化共生の学校づくり
横浜市の挑戦
山脇啓造、服部信雄 編著
横浜市教育委員会、横浜市国際交流協会 協力 ◎2400円

こんなに違う！ アジアの算数・数学教育
日本・ベトナム・インドネシア・ミャンマー・ネパールの教科書を比較する
田中義隆 著 ◎6800円

前川喜平 教育のなかのマイノリティを語る
高校中退・夜間中学・外国につながる子ども・LGBT・沖縄の歴史教育
前川喜平、青砥恭、関本保孝、善元幸夫、金井景子、新城俊昭 著 ◎1500円

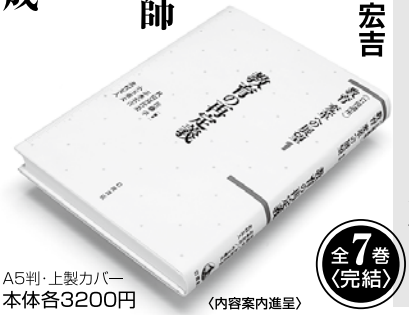
明石書店 〒101-0021 東京都千代田区外神田6-9-5 TEL.03-5818-1171 FAX.03-5818-1174
http://www.akashi.co.jp/ 振替00100-7-24505
＊価格税別 ＊目録送呈

◆歴史的な転換点に立つ「教育」を根底から考える

岩波講座 教育 変革への展望

［編集委員］佐藤 学・秋田喜代美・志水宏吉
小玉重夫・北村友人

1 教育の再定義
2 社会のなかの教育
3 変容する子どもの関係
4 学びの専門家としての教師
5 学びとカリキュラム
6 学校のポリティクス
7 グローバル時代の市民形成



全7巻〈完結〉

A5判・上製カバー
本体各3200円

〈内容案内進呈〉

岩波ブックレット

「みんなの学校」から「みんなの社会」へ
尾木直樹・木村泰子　学校を、社会を一人一人に取り戻そう！ 本体520円

「学び」という希望 ―震災後の教育を考える
尾木直樹　教育の目指す希望は？ 尾木ママが熱く語る！ 本体560円

新版 就学時健診を考える ―特別支援教育のいま
小笠 毅 編　「お子さんのため」の振り分けは、何を生み出すのか。 本体620円

調査報告 学校の部活動と働き方改革 ―教師の意識と実態から考える
内田 良・上地香杜・加藤一晃・野村 駿・太田知彩 本体620円

検証 迷走する英語入試 ―スピーキング導入と民間委託
南風原朝和 編　「入試で民間スピーキングテスト」で何が起こるか。 本体660円

［定価は表示価格+税］

岩波書店 〒101-8002 東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
http://www.iwanami.co.jp/

J.ロックランに学ぶ教師教育とセルフスタディ
—教師を教育する人のために
● ジョン ロックラン 監修/原著　武田信子 監修/解説
小田郁予・齋藤眞宏・佐々木弘記 編
定価3,780円

SDGs時代の教育 —すべての人に質の高い学びの機会を
● 北村友人・佐藤真久・佐藤学 編著
定価3,240円

SDGsとまちづくり —持続可能な地域と学びづくり
● 田中治彦・枝廣淳子・久保田崇 編著
定価3,240円

教育の本質と教師の学び
● 高橋浩・金田健司 編著
定価2,592円

新しい時代の英語科教育法
—小中高を一貫した理論と実践
● 木村松雄 編著
定価3,888円

早稲田教育叢書　37
学校マネジメントの視点から見た学校教育研究 —優れた教師を目指して
● 三村隆男 編著
定価3,024円

未来の教育を創る教職教養指針
● 山﨑準二・高野和子 編集代表　各巻定価2,160円
① 教育原論　山﨑準二 編著
② 教職原論　高野和子 編著
③ 発達と学習　鹿毛雅治 編著
⑥ カリキュラム・マネジメントと教職課程　金馬国晴 編著
⑦ 教科と総合の教育方法・技術　子安潤 編著

早稲田教育ブックレット　● 早稲田大学教育総合研究所 監修
21 **教育の原点**—ALS患者が短歌をとおして語りかける人生で一番大切なこと
22 **東アジア地域における小学校英語教育**
—日・中・韓の国際比較
定価各1,080円

よい授業とは何か
● 川田龍哉 著
定価2,160円

ナチスの教育 —ライン地方のあるギムナジウム
● 小峰総一郎 著
定価2,916円

リフレクション入門
● 一般社団法人学び続ける教育者のための協会(REFLECT) 編
定価2,160円

近代日本の生活改善運動と〈中流〉の変容
—社会教育の対象／主体への認識をめぐる歴史的考察
● 久井英輔 著
定価8,100円

教師の実践的知識の発達 —変容的学習として分析する
● 田中里佳 著
定価5,184円

カラフルな学校づくり —ESD実践と校長マインド
● 住田昌治 著
定価1,944円

唱歌教育の展開に関する実証的研究
● 嶋田由美 著
定価5,184円

ダイバーシティ時代の教育の原理
—多様性と新たなるつながりの地平へ
● 藤田由美子・谷田川ルミ 編著
定価2,376円

〒153-0064　東京都目黒区下目黒３－６－１
http://www.gakubunsha.com
学文社
Tel 03-3715-1501(代)　Fax 03-3715-2012
E-mail: eigyo@gakubunsha.com

情報教育の成立・展開期におけるカリキュラム評価
本村猛能・森山潤著　7500円

マクマリーのタイプ・スタディ論の形成と普及
藤本　和久著　12000円

中学校数学科の授業における相互作用プロセス
山路　茜著　7000円

社会形成科社会科論
子どものシティズンシップ教育研究会著　2500円

社会科授業4タイプから仮説吟味学習へ
岡﨑　誠司編著　2000円

日本における高齢者教育の構造と変遷
久保田治助著　6500円

理科教育における化学工業教材の意義と変遷
郡司　賀透著　7500円

手描き地図分析から見た知覚環境の発達プロセス
吉田　和義著　6500円

現代アメリカにおける構築主義歴史学習の原理と展開
寺尾　健夫著　13000円

ドイツ自由学校共同体の研究
渡邊　隆信著　9500円

米国公立学校教員評価制度に関する研究
藤村　祐子著　7000円

教育経営における責任・統制構造に関する研究
三浦　智子著　7500円

中学生の書く行為に着目した国語科における読者反応の支援
勝田　光著　6500円

初等社会科教育研究
中平一義・茨木智志・志村喬編著　1800円

器楽教育成立過程の研究
樫下　達也著　9000円

科学技術社会の未来を共創する理科教育の研究
内田　隆著　6500円

女子の理科学習を促進する授業構成に関する研究
稲田　結美著　9500円

社会教育主事に求められる役割
桜庭　望著　6500円

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-34
TEL 03-3291-5729　FAX 03-3291-5757
風間書房
（URL）https://www.kazamashobo.co.jp
メールアドレス pub@kazamashobo.co.jp
（価格税別）

北大路書房

〒603-8303
京都市北区紫野十二坊町12-8
☎075-431-0361　FAX 075-431-9393
http://www.kitaohji.com

教育の方法と技術
ーアクティブラーニングの理論と実践ー　稲垣　忠編著　A5・244頁・本体2200円＋税　授業のつくり方をインストラクショナルデザインの考え方にならい詳説。学習指導案を実際に作成し，実践，振り返りを経験できるように各章を配列。アクティブラーニングや教職課程コアカリキュラムにも対応した高精度設計のテキスト。

キーワード　生徒指導・教育相談・キャリア教育
ー子どもの成長と発達のための支援ー　小泉令三・友清由希子編著　B5・212頁・本体2500円＋税　「教職課程コアカリキュラム」を意識して主要な概念を解説。「チーム学校」や「学校安全」など，実践の場でも役立つ視点を取り入れつつ，図表の多用や基本２頁単位の読み切り，キーワードの明示など初学者向けの工夫を施したテキスト。

メタ認知で〈学ぶ力〉を高める
ー認知心理学が解き明かす効果的学習法ー　三宮真智子著　A5・176頁・本体1800円＋税　自律的な学習者を目指すために重要なキーワード「メタ認知」。第１部ではその概念について，第２部ではよりよい学習法や教授法における科学的根拠について，読み切り形式で平易に解説。単なるノウハウではなく，臨機応変に活用できる学習方略を提供する。

改訂新版　教職をめざす人のための教育課程論
古川　治・矢野裕俊編著　A5・272頁・本体2300円＋税　教育課程の理論の解説に加え，編成や手順について，教師の仕事として求められる実務的な側面を分かりやすく説き，実践力を育てることを重視。国内外の教育改革のなかで教育課程にみられる新しい動向についても触れる。好評の前著を，学習指導要領の改訂，教免法の改正を踏まえた改訂版。

重症心身障害児の認知発達とその援助
片桐和雄・小池敏英・北島善夫著　2900円＋税

「9歳の壁」を越えるために
脇中起余子著　1800円＋税

LD児の漢字学習とその支援
小池敏英・雲井未歓・渡邉健治・上野一彦編著　4000円＋税

脳性まひ児の発達支援
木舩憲幸著　2200円＋税

視覚障害児・者の理解と支援［新版］
芝田裕一著　2000円＋税

ワーキングメモリと発達障害
T. P. アロウェイ著／湯澤美紀・湯澤正通訳　1900円＋税

知的障害の心理学
小池敏英・北島善夫著　2800円＋税

聴覚障害教育　これまでとこれから
脇中起余子著　2300円＋税

［三訂］臨床心理アセスメントハンドブック
村上宣寛・村上千恵子著　2700円＋税

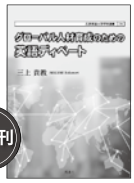
渓水社

広島市中区小町1-4（〒730-0041）
TEL（082）246-7909／FAX（082）246-7876

教員養成を担う　「先生の先生になる」ための学びとキャリア
最新刊

「教員養成を担う大学教員の養成」を目的に「Ed.D 型大学院プログラムの開発と実践」としてスタートし、現在も「教職課程担当教員養成プログラム」として継続する取組みの、成果と今後の展望について。《学振助成》**丸山恭司・尾川満宏・森下真実【編】3,900 円**

グローバル人材育成のための英語ディベート
最新刊



グローバル人材育成を目指した高等教育における英語ディベートの有効性を、細分化した仮説によって検証していく。
三上貴教【著】3,000円　《広島修道大学学術選書74》

社会科を好きになる教育への手立て
―混迷を切り拓く学力の育成―

ネット限定
最新刊

社会科の初志をつらぬく会【編】　2,000 円
※本書はアマゾン、三省堂オンデマンド、楽天ブックス限定発売のプリントオンデマンド書籍です。一般書店や大学生協ではお求めいただけません。

明治英語教授理論史研究　中学校英語教授の制度化
中学校英語教授制度化の過程研究から、子どもが学習主体・自立的判断力を持つ市民としての能力を獲得するための英語教育を追求する。**西原雅博【著】3,500 円**

マルチモダリティ　―今日のコミュニケーションにせまる社会記号論の試み―
21 世紀のイギリス国語科教育改革を担う主要理論の一つ、マルチモーダル社会記号論の邦訳。**松山雅子【監訳】［ギュンター・R・クレス著］3,600 円**

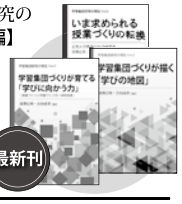
ブルーナーの方法
J・ブルーナーのテクストを丁寧に読み解き、彼の心理学の方法論を明らかにする。《学振助成》**横山草介【著】　4,600 円**

シリーズ〈学習集団研究の現在〉　好評発売中 各 1,800 円

Vol.1 いま求められる授業づくりの転換
対話的、協同的な学び、集団思考が求められる一方で、それらの基盤となる集団のあり方自体が問われている。新たな教育研究をデザインしながら、学習集団研究の現在を問い直す。
広島大学教育方法学研究室（深澤広明・吉田成章／責任編集）

Vol.2 学習集団づくりが描く「学びの地図」
「学習指導要領の改訂と学校づくり・授業づくり」「学習集団づくりによる教育実践の記録と方針」「学習集団研究の最前線」の三部構成。**深澤広明・吉田成章【編】**

Vol.3 学習集団づくりが育てる《最新刊》「学びに向かう力」
―授業づくりと学級づくりの一体的改革―
深澤広明・吉田成章【編】



最新刊

〈まなざし〉の教育学
モノサシをあてがい資質や能力を計測するような支配的なまなざしが浸透する状況下で、子どもの苦しみの底にある葛藤や願望に目を向けた教育の可能性を探る。《学振助成》**中村麻由子【著】4,200 円**

学級の教授学説史　―近代における学級教授の成立と展開―
歴史的文脈に立ち返り、学級組織に付与されてきた教育的意図の漸進的発展の諸相や課題を考察。《学振助成》**熊井将太 著 5,800 円**

国語教師が教える 二百字作文練習
段階を踏んだステップで学習者を上達にいざなう。応用として長作文編も。**金子泰子【著】1,800 円**

Lesson Study in Japan
日本教育方法学会［中野和光・臼井嘉一・佐藤学 他著］※In English
授業研究の歴史と教師教育、方法と形態の二部構成。**6800 円**

【表示価格は税別です】

書籍の詳しい情報はホームページで
http://www.keisui.co.jp

◘グループ・ディダクティカ 編

深い学びを紡ぎだす

教科と子どもの視点から

教育実践の蓄積や理論をふまえ、「深い学び」の課題を検討する。

四六判並製288頁 本体2500円 ISBN978-4-326-25132-2

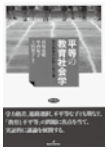
◘耳塚寛明・中西祐子・上田智子 編著

平等の教育社会学

現代教育の診断と処方箋

「教育と不平等」を焦点に、教育達成や格差問題を実証的に分析。

A5判上製212頁 本体2800円 ISBN978-4-326-25133-9



◘嶋口裕基

ブルーナーの「文化心理学」と教育論

「デューイとブルーナー」再考

「文化心理学」前後のブルーナー理論とデューイの教育論を検討。

A5判上製488頁 本体7200円 ISBN978-4-326-25130-8

◘久冨善之・長谷川裕・福島裕敏 編著

教師の責任と教職倫理

経年調査にみる教員文化の変容

全国10の地域と震災被災地の教師への質問紙調査による実証分析。

A5判上製508頁 本体5500円 ISBN978-4-326-25127-8

◘佐藤隆之

市民を育てる学校

アメリカ進歩主義教育の実験

「市民性教育」の源流、ホーレスマン・スクールの思想と実践。

四六判上製344頁 本体3500円 ISBN978-4-326-29928-7

◘教育思想史学会 編

教育思想事典 増補改訂版

近年の研究成果や新項目を大幅に加えて詳説した「読む事典」。

A5判上製888頁 本体7800円 ISBN978-4-326-25122-3

◘樋口 聡・G.ゲバウア・R.シュスターマン

身体感性と文化の哲学 ※最新刊

人間・運動・世界制作

身体・人間・教育・芸術・スポーツに関する教育哲学者らの思索。

四六判上製320頁 予価3800円 ISBN978-4-326-29931-7

＊表示価格には消費税が含まれておりません。

勁草書房（けいそう） http://www.keisoshobo.co.jp

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 TEL 03-3814-6861 FAX 03-3814-6854

教育学年報11号

教育研究の新 ニューチャプター 章

編集委員＝下司 晶・丸山英樹・青木栄一・濱中淳子・仁平典宏・石井英真・岩下 誠

教育学の新たなアイデンティティを構築、あるいは再確認するために、知的な刺激に溢れた自由で活発な論争が活性化することを願って、ここに『教育学年報』を再び始動します。（「まえがき」より）

近刊 広瀬裕子＝編 〈グローバル化をキーワードに近代社会が拡大成熟した段階の教育状況を考察する〉

カリキュラム・学校・統治の理論

◎ポスト・グローバル化社会の教育【仮題】 予価2800円

執筆者＝石井英真・大桃敏行・苅谷剛彦・北村友人・小玉重夫・清田夏代・長嶺宏作・広瀬裕子

日本教育学会教育勅語問題ワーキンググループ＝編

教育勅語と学校教育

◎教育勅語の教材使用問題をどう考えるか 2400円

福元真由美 〈保育実践において相互扶助と共生協働の未来像を描いた革新的保育の源流——先人たちの実践によって開拓された保育思想、その歴史を活写する〉

都市に誕生した保育の系譜

◎アソシエーショニズムと郊外のユートピア 3500円

谷川至孝
英国労働党の教育政策「第三の道」 ◎教育と福祉の連携 3900円

岩田一正
教育メディア空間の言説実践 ◎明治後期から昭和初期までの教育問題の構成 3500円

平井悠介
エイミー・ガットマンの教育理論 ◎現代アメリカ教育哲学における平等論の変容 3400円

広田照幸・宮寺晃夫＝編
教育システムと社会 ◎その理論的検討 3600円

平井秀幸〈日本社会病理学会学術奨励賞〉
刑務所処遇の社会学 ◎認知行動療法・新自由主義的規律・統治性 6200円

下司 晶＝編
「甘え」と「自律」の教育学 ◎ケア・道徳・関係性 2000円

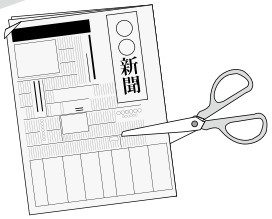
是澤博昭
軍国少年・少女の誕生とメディア ◎子ども達の日満親善交流 2800円

吉川卓治
「子ども銀行」の社会史 ◎学校と貯金の近現代 2400円

北村和夫
オートポイエーシスとしての近代学校 ◎その構造と作動パターン 2800円

大田直子
現代イギリス「品質保証国家」の教育改革 2400円

世織書房 〒220-0042 横浜市西区戸部町7-240 文教堂ビル3階 TEL045-317-3176／FAX045-319-0644
seori@nifty.com http://seorishobo.com〈税抜〉



日本の新聞★★★新しい魅力、提案します。

通信社、全国紙、北海道から九州・沖縄までのブロック紙・地方紙、専門紙　85 紙

共同通信社	河北新報	静岡新聞	山陽新聞	日経流通新聞 MJ
時事通信社	秋田魁新報	新潟日報	山陰中央新報	日経産業新聞
	山形新聞	富山新聞	中国新聞	中部経済新聞
朝日新聞	福島民友	北日本新聞	山口新聞	ビジネスアイ
産経新聞	福島民報	北陸中日新聞	徳島新聞	日刊工業新聞
日本経済新聞	茨城新聞	北國新聞	愛媛新聞	日本農業新聞
毎日新聞	下野新聞	福井新聞	高知新聞	
読売新聞	上毛新聞	中日新聞	西日本新聞	新聞協會報
	埼玉新聞	伊勢新聞	佐賀新聞	
北海道新聞	千葉日報	京都新聞	長崎新聞	公明新聞（公明党）
十勝毎日新聞	東京新聞	京都新聞（滋賀）	熊本日日新聞	しんぶん赤旗（共産党）
室蘭民報	神奈川新聞	大阪日日新聞	大分合同新聞	社会新報（社民党）
釧路新聞	信濃毎日新聞	神戸新聞	南日本新聞	自由民主（自民党）
東奥日報	長野日報	奈良新聞	宮崎日日新聞	民進プレス（民進党）
岩手日報	山梨日日新聞	紀伊民報	琉球新報	
岩手日日	岐阜新聞	日本海新聞	沖縄タイムス	

月刊 切抜き速報® シリーズ

85 紙より各テーマの約１ヶ月分の主要報道を収録！

教育版
学校経営・運営、安全管理、いじめ対応、学校・教員・子どもを取り巻く問題。

●A４判　168頁　毎月28日配本
●年間購読料 27,720円（税込・送料無料）

社会版
政治・経済・法律、歴史など時事問題の比較。ニュースを理解するために。

●A４判　96頁　毎月10日配本
●年間購読料 18,000円（税込・送料無料）

食と生活版
食の安全、給食など。栄養管理・指導や家庭科教育に携わる方へ。

●A４判　96頁　毎月9日配本
●年間購読料 18,000円（税込・送料無料）

健康りてらしぃ
こころとからだの健康情報、生活習慣改善、セルフケアの実践に向けて。

●A４判　96頁　毎月5日配本
●年間購読料 18,000円（税込・送料無料）

福祉ニュース障害福祉編
福祉施設の取り組み、療育、特別支援教育就労支援などの様々な実践と報道。

●A４判　96頁　毎月15日配本
●年間購読料 18,000円（税込・送料無料）

福祉ニュース高齢福祉編
高齢社会の問題、介護施設の取り組み、社会保障行政など。

●A４判　96頁　毎月20日配本
●年間購読料 18,000円（税込・送料無料）

保育と幼児教育版
保育・幼児教育の動き、実践から子育て支援、子育ての知恵まで。

●A４判　96頁　毎月30日配本
●年間購読料 18,000円（税込・送料無料）

科学と環境版
新発見、研究成果、科学用語など自然・科学・技術に関する知識欲を刺激。

●A４判　96頁　毎月14日配本
●年間購読料 18,000円（税込・送料無料）

医療と安全管理総集版
病院経営、医療・看護技術や倫理、患者支援と医療安全管理など。

●A４判　120頁　毎月29日配本
●年間購読料 23,940円（税込・送料無料）

コラム歳時記 SP 版
全国の地方紙1面コラムを毎月200本厳選。講演の話題、書き写しにも。

●A5判　216頁　毎月末日配本
●年間購読料 16,188円（税込・送料無料）

株式会社ニホン・ミック　CREATIVE FARM GROUP

TEL▶06(6365)1560　FAX▶06(6365)9518　▶info@nihon-mic.co.jp

〒530-0045 大阪市北区天神西町6番7号ファイン・アートビル

＊電話・FAXまたは、ホームページ上のWeb専用申込フォームからお申込いただけます

http://www.nihon-mic.co.jp/　ニホン・ミック　検索

有斐閣 出版案内

東京・神田・神保町2 TEL：03-3265-6811
http://www.yuhikaku.co.jp/

表示価格は税別。
消費税込みの金額が定価です。

◎図書目録送呈◎

2019年4月新刊

教育学をつかむ 改訂版

木村　元・小玉重夫・船橋一男著

学習指導要領改訂、コアカリキュラム、教員養成改革、大学入試改革、アクティブラーニングなど、教育をめぐる新たな動向をふまえた10年ぶりの改訂。

〔テキストブックス〔つかむ〕〕 二二〇〇円

はじめての子ども教育原理

福元真由美編

一八〇〇円

有斐閣ストゥディアシリーズ

問いからはじめる教育学

勝野正章・庄井良信著

初学者の学びをサポートするツール（QUESTIONやnoteなど）を豊富に盛り込み、考える愉しみを味わいながら学べるテキスト。

一八〇〇円

教育をよみとく

田中耕治・石井英真・八田幸恵・本所　恵・西岡加名恵著

◉教育学的探究のすすめ

「教育学部ガイドブック」「教育研究入門書」「教師入門書」としても必読。

一五〇〇円　四六判

ベストをつくす教育実習

筒井美紀・遠藤野ゆり編◉強みを活かし実力を伸ばす

教育実習に必要な知識を身につけられる、実践的テキスト。

二〇〇〇円　A5判

1月新刊

新しい教育原理 第3版

田嶋　一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二著

〔有斐閣アルマ〕 一九〇〇円

新しい時代の教育課程 第4版

田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵著

〔有斐閣アルマ〕 二〇〇〇円

新しい時代の教育方法 改訂版

田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之著

〔有斐閣アルマ〕 一八〇〇円

新しい時代の生活指導

山本敏郎・藤井啓之・高橋英児・福田敦志著

〔有斐閣アルマ〕 一八〇〇円

新しい教育評価入門

西岡加名恵・石井英真・田中耕治編◉人を育てる評価のために

〔有斐閣コンパクト〕 二〇〇〇円

川島書店

〒334-0011 川口市三ツ和3-2-6（価格は税別）
Tel 048-286-9001　Fax 048-287-6070　http: //kawashima-pb.kazekusa.jp/

甦る教師のために 改訂版
教員研修・講習テキスト　4500円
鈴木正幸・加藤幸次・辻村哲夫・山本克典編著　この講習をきっかけに、それぞれの教師がどのような形であれ、自己変革を遂げていくことが可能であるようにとの思いを込めた、定評の書。

道徳教育実践論
遠藤克弥編著　2000円
今年度から実施される道徳教育の教科化に対応するタイムリーな書

教育の原理を学ぶ
遠藤克弥・山﨑真之著　1900円
教育を実践する人たちに、教育の原理を一歩踏み込んで読み解く。

日本教育の根本的変革
村井実著　2000円
明治維新以来の日本に教育は存在したのか？　著者渾身の問題提起

「助力」としての教育
松丸修三著　4400円
福沢諭吉・村井実・宮城まり子が志向した助力としての教育を考察

フレーベル教育学入門
豊泉清浩著　2200円
前著「フレーベル教育学研究」を内容的に補い、平易に解説する。

教育関係論の現在
高橋勝・広瀬俊雄編著　2500円
現代の人間形成の課題を「関係性」という視点から多彩に読み解く

句集〝風〟と出会う
かつらきよこ編著　1800円
大阪・豊中市の障害児教育で俳句を共に学んだ三人の生きてきた証

詩のあしおと―学級通信の片隅から
堀 徹造著　1600円
通信に掲載した様々な詩作品から厳選し、鑑賞と創作の意欲を促す

論文の手法 日本教育史研究法・序説
花井信著　1400円
初学者向けに、著者みずからの研究手法を公開した論文指南の書。

何が課題であり、今、何をするべきなのかを考えるための1冊。

事典 持続可能な社会と教育

日本環境教育学会　日本国際理解教育学会　日本社会教育学会　日本学校教育学会
SDGs市民社会ネットワーク　グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン　編

[持続可能な社会の構築]（「SDGs」など17項目），**[気候変動とエネルギー]**（「地球温暖化」など13項目），
[生態系と物質循環]（「生物多様性と生態系」など18項目），**[社会的・文化的課題]**（「貧困と公正」など13項目），
[地域をめぐる課題と取り組み]（「少子高齢化と人口減少社会」など11項目），
[行政・産業界等の取り組み]（「持続可能な消費と生産」など10項目），
[教育政策の課題]（「社会に開かれた教育課程」など24項目），**[教育へのアプローチ]**（「環境教育」など20項目），
[教育方法の革新]（「探究的な学習」など13項目）　**について幅広く取り上げて解説。**

A5判／並製／256頁　定価：本体2,800円＋税

持続可能性の教育 新たなビジョンへ
佐藤学・木曽功・多田孝志・諏訪哲郎　編著

地球社会全体が未曾有の変革の時代を迎えている今，「持続可能性の教育」について理論的かつ実践的に検討し，希望ある未来社会を構築する次世代の担い手を育成する方向を提示する。

A5判／144頁　定価：本体1,800円＋税

環境教育辞典
日本環境教育学会　編

日本環境教育学会編集による，環境問題・環境教育の用語辞典。全830項目。「持続可能性」に関連する用語など新たなキーワードも多数収載。

A5判／352頁　定価：本体4,000円＋税

教育出版
〒101-0051　東京都千代田区神田神保町2-10
TEL：03-3238-6965　FAX：03-3238-6999
https://www.kyoiku-shuppan.co.jp

こちらから弊社サイトにアクセスできます。

日本教育学会第 78 回大会プログラム

2019 年 6 月 30 日発行

［発行所］　日本教育学会第 78 回大会実行委員会

〒 171-8588　東京都豊島区目白 1-5-1
学習院大学
E-mail：jera782019@gmail.com
URL：http://www.jera78.jp/

［印　刷］　よしみ工産株式会社
〒 113-0033　東京都文京区本郷 3-26-1　本郷宮田ビル 3F
TEL：03-5802-5601

INTRODUCTION

The World Education Research Association (WERA) is an association of major national, regional, and specialty education research associations dedicated to sharing scholarship, developing networks, and mutually supporting capacity building.

The WERA 2019 Focal Meeting is held in Tokyo, Japan from 5th to 8th August 2019. This meeting is an occasion for the WERA to celebrate its 10 Years Anniversary. As one of the founding members of the WERA, the Japanese Educational Research Association (JERA) is pleased to host this memorial event.

The main theme of the meeting is "Future of Democracy and Education: Realizing Equity and Social Justice Worldwide" and prominent scholars dealing with this topic in their educational researches have been invited as keynote speakers.

The WERA 2019 Focal Meeting consists of a program of paper and symposia sessions on topics of world-wide scope. In general, the WERA Focal Meeting seeks to feature research that includes more than one country or is comparative, cross-cultural, international, or transnational in conceptualization, scope, or design.

The meeting is held in conjunction with the JERA 2019 Annual Conference at the University of Tokyo and Gakushuin University. Participants to the WERA 2019 Focal Meeting also have opportunities to attend the JERA Conference and learn about diverse educational researches conducted in Japan (some of the presentations at the JERA 2019 Annual Conference are done in English).

The organizing committee of the WERA 2019 Focal Meeting is very much looking forward to receiving you at the conference venues in Tokyo and hope you have memorable experiences in Japan in summer.

WERA 2019 Organizing Committee
Local Chair, Manabu Sato

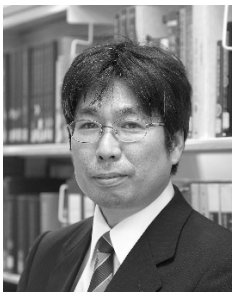
Welcome Greetings

Ingrid Gogolin
President, World Education Research Association
Professor, Hamburg University

Dear colleagues, dear participants of the JERA Conference 2019 and the WERA Focal Meeting 2019 in Tokyo!

It is my great pleasure and honour to welcome you to this special event. The community of educational researchers who are gathered in WERA, the World Education Research Association, are grateful for the opportunity to celebrate the 10th anniversary of the Association together with JERA in Tokyo. JERA is one of the pillars of WERA and inspires the development of our Association from the very beginning. We are impressed by the generosity and many signs of hospitality that we have already experienced from our colleagues in Tokyo during the preparation of the joint conference.

We all share the interest in the further development of educational science and research - a science whose theoretical interest in knowledge and understanding is often combined with the impetus to contribute to the clarification of issues relevant to practice. The theme of the conference - Future of Democracy and Education: Realizing Equity and Social Justice Worldwide - encourages discussion of educational research at the highest level, driven by an interest in discovery and insight, but also by concern for the common good of future generations. I am grateful to be able to participate in this important event - and I am delighted to share with you the celebration of WERA's 10years anniversary.



Teruyuki Hirota,
President, Japanese Educational Research Association
Professor, Nihon University

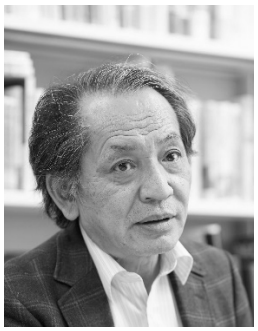
It is my heartfelt pleasure to welcome you to the World Education Research Association (WERA) Focal Meeting in Tokyo, Japan, held in conjunction with the Japanese Educational Research Association (JERA) 2019 Annual Conference.

The world of education is being confronted with new challenges as economic globalization and technological development are changing countries and local communities all over the world. At the same time, people are becoming much more strongly interconnected than ever before within and beyond national borders. It is therefore highly significant and necessary that education researchers from around the world examine the questions we share despite our cultural differences and work on issues in which our societies are mutually related. I believe that your participation in these meetings in Tokyo will lead you to valuable insights for more creative and innovative research in the future.

The main theme of the WERA Tokyo Meeting is "Future of Democracy and Education: Realizing Equality and Social Justice Worldwide." As this theme suggests, the role that education plays in society should be multifaceted, not merely limited to contributions to economic and technological advances. I sincerely hope that the Tokyo meetings will be a great opportunity for all participants to take a multifaceted approach to the question of what education can and should do to realize a better world.

A few words for my colleagues from outside Japan: for many years, the Japanese education research community has been strongly domestically oriented, largely because of the use of Japanese, a language not widely spoken elsewhere. However, with the Tokyo meetings as a new beginning, we Japanese researchers are hoping to further our exchange and collaboration with our international colleagues. We are enthusiastically looking forward to new encounters with researchers from around the world.

Tokyo is a safe city, with kind residents. I hope that you will find free time during your stay to enjoy walking around Tokyo. I am sure that you will spend a pleasant time and enrich the non-academic side of your stay as well.



Manabu Sato
Local Chair, The Organizing Committee of WERA 2019
Research Professor, Gakushuin University
Professor Emeritus, The University of Tokyo

Welcome to WERA 2019 and to Tokyo, Japan. It is my greathonor to host the WERA 10 Years Anniversary Focal Meeting, partly because I was one of the founding members of WERA , and partly because I had worked at The University of Tokyo for 24 years and have served at Gakushuin University for 6 years, both of where are the venues of this meeting..

The theme of the WEEA 2019 is “Future of Democracy and Education: Realizing Equity and Social Justice Worldwide”. It is truly a core and common issue among world educationists. Modern education was basically constructed with a domestic concern, in particular in pursuit of establishing nation state. But, the situation drastically changed. Today, every domestic issue is global, and even global issues are domestic. We have to open an avenue through which we can obtain a new way of thinking to detect a hidden linkage for combining domestic view and global one.

In addition, global education stands at a crossroad. Facing with serious collapse of democracy, equity and social justice worldwide, world educationists are all suffered fromlots of risks of public education. However, in any age, education has been a light house,or a compass, for voyager in troubled society. I hope that, the WERA 2019 will be an inspiring voyage for you to find our such a beacon or a compass with your new colleagues beyond national borders.

Finally, I would like to express my thanks in a million to all the attendants of WERA Tokyo, all the WERA council members and all the sponsors and volunteers of this meeting.

Keynote Speakers

ANDY HARGREAVES

Andy Hargreaves is Visiting Professor at the University of Ottawa, Research Professor at Boston College, and Distinguished Visiting Professor at Hong Kong University. He is President of the International Congress of School Effectiveness and Improvement, Adviser in Education to the First Minister of Scotland and from 2015-2018 to the Premier of Ontario. Andy is founder of the Atlantic Rim Collaboratory (ARC): a group of 9 nations committed to broadly defined excellence, equity, wellbeing, inclusion, democracy and human rights www.atrico.org

Andy has consulted with the OECD, the World Bank, governments, universities and professional associations worldwide. He has given keynote addresses in 50 countries, 47 US states and all Australian states and Canadian provinces. Andy's more than 30 books have attracted multiple Outstanding Writing Awards, including the highest value book award in education, The Grawemeyer, in 2015. Andy is ranked in the top 20 scholars with most influence on US education policy debate. He has a Google Scholar citation score of over 60,000 citations and his book Changing Teachers, Changing Times is one of the top three most cited books ever about teaching, from any author. In 2015, Boston College gave him its Excellence in Teaching with Technology Award. He is holder of the Whitworth Award for contributions to educational research in Canada, and the Horace Mann and Robert Owen awards for services to public education in the US and Scotland, respectively. Andy holds Honorary Doctorates from the Education University of Hong Kong and the University of Uppsala in Sweden.

Andy has two children and four grandchildren, including identical twins. He is an avid long-distance hiker, and always up for a game of pool.

Andy's most recent book (with Michael O'Connor) is *Collaborative Professionalism: when teaching together means learning for all* (Corwin, 2018).

STEPHEN J BALL

Stephen J Ball is Distinguished Service Professor of Sociology of Education at the University College London, Institute of Education. He was elected Fellow of the British Academy in 2006; and is also Fellow of the Academy of Social Sciences and Society of Educational Studies, and a Laureate of Kappa Delta Phi; he has honorary doctorates from the Universities of Turku (Finland), and Leicester. He is co-founder and Managing Editor of the Journal of Education Policy.

His main areas of interest are in sociologically informed education policy analysis and the relationships between education, education policy and social class. He has written 20 books and had published over 140 journal articles. Recent books: *Edu.Net* (Routledge 2017) and *Foucault as Educator* (Springer 2017).

GERT BIESTA

Gert Biesta (www.gertbiesta.com) is currently Professor of Education in the Department of Education of Brunel University London and NIVOZ Professor for Education at the University of Humanistic Studies, The Netherlands, and has been a member of the Education Council of the Netherlands, the advisory body of the Dutch government and parliament, since 2014. He is co-editor of the British Educational Research Journal and associate editor of Educational Theory. His research focuses on educational theory and policy, including the theory of educational and social research. He is particularly interested in questions of democracy and democratisation.

Recent books include: *The Beautiful Risk of Education* (Routledge, 2014); *Teacher Agency: An Ecological Approach* (Bloomsbury 2015); *The Rediscovery of Teaching* (Routledge 2017); and *Letting Art Teach* (ArtEZ 2017). His work has so far appeared in 16 different languages.

INGRID GOGOLIN

Ingrid Gogolin is a Professor for international comparative and intercultural education research at the Universität Hamburg. Her research is focused on problems of migration and linguistic diversity in education. She was coordinator of the EU-funded project "European Educational Research Quality Indicators (EERQI)". Recent research projects deal with the following topics: Linguistic diversity management in urban areas (Research Cluster of Excellence at the Universität Hamburg); Multilingualism and Language Education (www.kombi.uni-hamburg.de); Multilingual development in a Longitudinal Perspective (MEZ; www.mez.uni-hamburg.de). She was awarded honorary doctor's degrees by the University of Dortmund/ Germany (in 2013) and the National Kapodistrian University of Athens/ Greece (in 2017).

Examples of publications: Book series 'Hamburg Studies on Linguistic Diversity' (2013ff, ed. with Peter Siemund, Amsterdam: John Benjamins; exemplar volume: Peukert, Hagen; Gogolin, Ingrid (Eds.) (2017): Dynamics of Linguistic Diversity. Amsterdam (John Benjamins)

www.ingrid-gogolin.eu

OON-SENG TAN

Professor Oon-Seng TAN is Director of the Centre for Research in Child Development at the National Institute of Education, Singapore. He is also a Yidan Visiting Global Fellow of Harvard University. Prof Tan was previously Director of the NIE. He was President of the Educational Research Association of Singapore and President of the APERA. Professor Tan has been an Expert Panel member of the Social Sciences & Humanities Research Fund of Singapore. He is Editor-in-Chief of Educational Research for Policy & Practice (Springer) and Lead-Editor of Asia Pacific Journal of Education (Routledge). Prof Tan's areas of research include teacher education, psychology and learning. He has authored/edited more than 20 books and over 150 scholarly articles/chapters in these fields. He has delivered keynote addresses globally including the National Science Foundation EHR Distinguished Lecture, AERA Annual Meetings presidential sessions, the Royal Swedish Academy of Science international symposium, and international education ministers' summits.

Pre-Conference Workshops

1. LEARNING TO DESIGN AND IMPLEMENT EDUCATION INTERVENTIONS

Course Co-directors: Barbara Schneider (Michigan State University, USA), Katariina Salmela-Aro (University of Helsinki, Finland) and Stephan Vincent-Lancrin (Organisation for Economic Co-operation and Development)

Time: 8:30-12:30, Venue: Faculty of Education, The University of Tokyo

Costs: USD 50

2. SUCCESSFUL ACADEMIC PUBLISHING: A GLOBAL PERSPECTIVE

Course Co-Directors: Patricia Alexander(University of Maryland, USA) and Felice J Levine (Executive Director: American Educational Research Association)

Time: 13:00-17:00, Venue: Faculty of Education, The University of Tokyo

Costs: USD 50

3. OBSERVING JAPANESE CLASSROOMS WITH DVD AND DOING LESSON STUDY TO BUILD LEARNING COMMUNITIES

Course Co-directors: Kiyomi Akita (The University of Tokyo, Japan) and Manabu Sato (Gakushuin University, Japan)

Time:13:00-17:00, Venue: Faculty of Education, The University of Tokyo

Costs: USD 50

For more information, please see the Detailed Descriptions of Pre-conference on the Conference Website

(https://www.wera-tokyo.com/pdf/pre-conference_workshop3.pdf).

Invitational Symposia

August 6, 7, 8: Gakushuin University, Central Education Research Building

WERA Council: Invitational Symposia:

5 Submissions

WERA Institutional Member; Invitational Symposium:

1 Submission

WERA-IRN (International Research Network):Invitational Symposia: 6 Submissions

Outline of Time and Venues

August 4: Pre-Conference Workshops (Optional)

The University of Tokyo, Faculty of Education

Workshp1: 8:30-12:00　Workshop 2 & 3, 13:00-17:00

August 5: Opening Ceremony, Keynote Speeches and WERA 10 Years Ceremony

Yasuda Memorial Hall: The University of Tokyo

9:00　- 10:00　Registration
10:00 – 10:40　Opening Remark
10:40 – 11:00　Coffee Break
11:00 – 12:00　Keynote Speech 1: Andy Hargreaves
12:00 – 13:30　Lunch
13:30 – 14:30　Keynote Speech 2: Stephen Ball
14:30 – 15:30　Keynote Speech 3: Gert Biesta
15:30 – 16:00　Coffee Break
16:00 – 17:00　WERA 10 Years Anniversary Ceremony

17:30 – 19:00　WERA Welcome Reception (Optional)
Ito International Research Center, BF1. The University of Tokyo

August 6: Keynote Speeches, DEC Meeting, Symposium and Sessions: Gakushuin University

Plenary Meeting, Symposia and Sessions: Gakushuin University
9:00　– 10:00　Registration: WEST 2 building 1st floor.
10:00 – 12:30　WERA Plenary Meeting: 100 Years Memorial Hall, Gakushuin University
10:00 – 10:30　Opening
10:30 – 11:30　Keynote Speech 4, Ingrid Gogolin

11:30 – 12:30 Keynote Speech 5: Oon-Seng Tan

Invitational Symposia: Central Education Research Building

13:00 – 14:30, 14:45 – 16:15, 16:30 – 18:00

Symposium and Sessions: Central Education Research Building, North 1 Building

9:00 - 10:30, 10:45 – 12:15, 13:00 – 14:30, 14:45 – 16:15, 16:30 – 18:00

Poster Session 1

DEC Meeting: Central Education Research Building, 16:30 – 18;00

DEC Social Party; Matsumoto-ro, Central Education Research Building 12F. 18:30 – 20:00

August 7: Invitational Symposia, Symposium and Sessions

Gakushuin University

Invitational Symposia: Central Education Research Building

9:00 - 10:30, 10:45 – 12:15, 13:00 – 14:30, 14:45 – 16:15, 16:30 – 18:00

Symposium and Sessions: Central Education Research Building, North 1 Building

9:00 - 10:30, 10:45 – 12:15, 13:00 – 14:30, 14:45 – 16:15, 16:30 – 18:00

Poster Session 2

August 8: Invitational Symposia, Symposium, Sessions and Closing Plenary: Gakushuin University

Invitational Symposia: Central Education Research Building

9:00 - 10:30, 10:45 – 12:15, 13:00 – 14:30, 14:45 – 16:15

Symposium and Sessions; Central Education Research Building, North 1 Building

Closing Plenary: Central Education Research Building

16:30 – 17;00

Information

Registration

August 5: 9:00- 18:00, Yasuda Memorial Hall, The University of Tokyo
August6 – 8: 9:00-18:00, West 2 Building, 1st Floor, Gakushuin University

Welcome Reception (Optional)

Date and Time: August 5, 18:00 – 20:00
Venue: Ito International Research Center, BF1, The University of Tokyo
Cost: 50 USD

Pre-Conference Workshop (Optional)

Three workshops are held as follows/
Date and Time: August 4. Workshop 1: 9:00- 12:00. Workshop 2, 3: 13:00 – 1500
Venue: Faculty of Education, The University of Tokyo
Cost: 50 USD/workshop

Reception Party for DEC Members

All the participants of DEC Meeting, August 6: 17:00 – 18:30, are invited to the following reception dinner party.
Date and Time: August 6, 19:00 – 20:30
Venue: Matsumoto-Ro, Central Education and Research Building 12F. Gakushuin University

Coffee Service

Coffee and snacks are served at the 1st floor of West 2 Building, Gakushuin University during the meeting.

Luncheon Seminar on International Publications

Sponsored by Springer Nature, the seminar provides an opportunity to learn how to publish academic books with international publishers. Lunch will be served to the participants (limited number in box lunches).

Date and Time:　August 7, 12:00 – 13:00

Venue: To be announced at Gakushuin University

WERA Council Meeting& Banquette

August 9:　9:00 – 17:00, 18:00-20:00, Hotel Chinzanso

WERA 10 Years Anniversary Focal Meeting Organizing Committee

Chair: Manabu Sato (Gakushuin University)
Vice-Chair: Yuto Kitamura(The University of Tokyo)
Vice-Chair: Masako Nakamura(O'berin University)
Vice-Chair: Shigeo Kodama (The University of Tokyo)
Secretary General: Hideki Maruyama: (Sophia University)
Members: Misako Nukaga (The University of Tokyo)
Yoshimitsu Matsuura (Keio University)
Takayo Ogisu (The University of Tokyo)
Jun Kawaguchi (Tsukuba University)
TomokoTokunaga (Tsukuba University)
Hidetaka Konyuba (Teikyo University)
Kanako Kusanagi (The University of Tokyo)
Secretariat: Riko Matsumura
Reiko Tanaka

PARTNERS

学習院大学 GAKUSHUIN UNIVERSITY

東京大学 THE UNIVERSITY OF TOKYO

Japanese Education Research Association

SPONSORS

- Gakushuin University
- Japan Society for the Promotion of Science
- The Foundation for the Advancement of Juvenile Education in Japan
- Springer Nature
- Kadokawa Dwango Educational Corporation
- Tokyo Shoseki, Co .Ltd.
- Kyoto Forum
- Labo International Exchange Foundation

World Education Research Association 2019

Focal Meeting in Tokyo

10 Years Anniversary

Future of Democracy and Education: Realizing Equity and Social Justice Worldwide

August 5-8, 2019

The University of Tokyo (August 5)

Gakushuin University (August 6-8)